



末日聖徒イエス・キリスト教会

聖徒の道

1986

2



予言者は語る

復活について: ジョセフ・スミス

イ エス・キリストにあって死んだ人は、よみがえるとき、喜びの結実を待ち望むことができる。それは彼らがこの世で得ていたもの、あるいは待ち望んでいたものである。

示現は非常にはっきりとしていた。私は実際に人々を見た。彼らはゆっくりと起き上がるようにして、墓から昇っていった。彼らは互いに手を取り、「お父さん、息子よ、お母さん、娘よ、兄さん、姉さん」と口々に言っていた。そして、死人に「起きよ」という声があるとき、

おそらく私は父の横に横たえられていると思うが、そのときの私の喜びはいかに大きいことであろうか。私の父、母、兄弟、姉、妹に会うのである。そばにいる彼らと、私はしっかり抱き合うのだ。

もし続けて忠実な生活を送るならば、失ったものはすべて復活のときに補われ、完全になるであろう。全能者の示現で、私はそのことを知った。

私が死よりも苦痛に感じているのは、靈魂必滅の思想である。もしも私が父や母、兄、それに妹や友人たちと再びまみ

えることができないとしたら、私の心臓は瞬時にして張り裂け、私はそのまま死んでしまうことであろう。

私には復活の朝に友人たちと再会できるという期待がある。そのために私の心は喜び、人生の悪にも対抗できるのだ。それは友人たちがはるかなる旅に出かけるのと似ている。彼らが戻ったとき、私たちはさらに大きな喜びをもって再会することができるのである。（「予言者ジョセフ・スミスの教え」ジョセフ・フィールディング・スミス編、pp.295-96）

聖徒の道

1986年2月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン

十二使徒定員会：マリオン・G・ロムニー、ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード

顧問：カーロス・E・エイシー、レックス・D・ビネガー、ジョージ・P・リー、ジェームズ・M・パラモア

編集長：カーロス・E・エイシー

教会機関誌ディレクター：ウェイン・B・リン

編集主幹：ラリー・A・ヒラー

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

子供の頁編集：ロイス・リチャードソン

レイアウト/デザイン：メアリー・A・ホドソン、C・キンボール・ポット



●最初の示現

聖徒の道 1986年2月号第30巻第2号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約1,100円(送料共)

普通号150円、大会号(1,7月号)350円

International Magazines PBMA0427JA

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright ©1986 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター 振替口座番号/東京0-41512)にてご送金いただければ、直接郵送致します。●「聖徒の道」のお申し込み先……〒150東京都渋谷区桜丘町28-8/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター/☎03-464-1617●「聖徒の道」についての配送のお問い合わせ……〒194東京都町田市小川1704-1/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター/☎0427-96-2820

●—もくじ

| | |
|--------------------|----------------------|
| 復活について：ジョセフ・スミス | 表2 |
| 絶えず真理を求める | ゴードン・B・ヒンクレー 2 |
| 卓越した模範者、ヨセフ | アーサー・R・バセット 6 |
| 絶えず祈れ | ジェームズ・T・デューク 12 |
| 夢による警告 | デビッド・J・ハーディ 13 |
| 若い女性のための「福音の7つの標準」 | 14 |
| 新讃美歌集の出版に寄せて | 16 |
| 最初の示現を結び固める | ミルトン・V・バックマン・ジュニア 18 |
| モルモネード | 表3 |
| 各地のたより | |
| 子供のページ(別冊付録) | |
| ハッピーバレンタイン | 1 |
| ヤコブとエサウ | 「聖典からの物語」より 2 |

大管長会メッセージ

絶えず真理を求める

第二副管長(現第一副管長)
ゴードン・B・ヒンクレー



末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として私たちに与えられている責任は、学問を求め、研究するという戒めに従うことです。主はこのように言われました。「汝ら最も善き書より智恵ある言葉を探し求めよ。また正に研究と信仰とによりて学問を求むべし。」(教義と聖約88:118)

主はさらに、真理の探究には終わりがあってはならないこと、また次のような事柄にも心を向けるべきであることを言明されたのです。「天にも地にも地の下にも関わりあること、またすでに起りたること、今有ること、近く必ず起らんとすること、また国内に有ること、国外にあること、また戦争、諸国民の葛藤、地上に下る審判、而して国々と王国とに就ける知識などもまた然り。」(教義と聖約88:79)

主は私たちに、永遠に向かって絶えず進歩するようと言われました。知識に対して十分だと言える人はだれもいないはずです。人生のひとつの扉が閉まる時、もうひとつが開いて、そこから私たちはさらに多くの知識を求め続けていくのです。この世の知識だけでなく、敬虔かつ霊的な真理を限りなく探究していくのです。私たちは、進歩し成長しながら、努めて善を、美を、そして建設的な事柄を尋ね求めていかなければなりません。

私は毎日数種類の新聞に目を通し、社説を読むようにしています。また、テレビやラジオの解説にもよく耳を傾けます。解説者と言われる人はみな立派な人々で、いわゆる書き言葉に慣れた、言葉遣いの巧みな人たちです。しかし、私がいつも思うのは、どの人のことを書く場合でも、彼らはその人の短所や欠点にしか目を向けていないということです。つまり批判ばかりで、賞賛の言葉が見あたらないのです。

しかもこの傾向は、新聞やラジオ、テレビの解説だけにとどまりません。新聞への投稿の内容も、世の中や自分の周囲に少しも利点を見いだしていないような人々が書いた、反抗的なものが多いのです。

批判、あら探し、悪口、これらの言葉がびったりするのが今の社会です。正直な人々が行政をあずかっている所はどこにもないという声を聞きます。またビジネスマンをうそつきだと言う人もいます。

公営の会社は過重な税をかけて私たちから金を略奪していると主張する人もいます。侮辱的な言葉や風刺的な意見、人の名声を傷つけるような言葉が至る所で聞かれます。悲しいことに、このような言葉が私たちの交わす会話のベースになっていることが多いのです。家庭においては、夫や父親の批判的な言葉に妻が涙し、子供たちが情緒的に打ちひしがれるという状態が起っています。批判は離婚を生み出し、若者の反抗心をあおるものです。また個人の価値を失わせてしまうことさえあります。教会において、批判は不活発の種をまき、ついには人々を背教へと追いやるのです。

皆さんにお願いしたいと思います。人が苦しんでいるのをとやかく言ったり、問題を探したりするのをやめ、もっと十分に日の光を楽しんでください。生活の中でもっと建設的な事柄に目を向けてください。もう少し良い点を探し、あざけりや皮肉な言葉をやめ、寛大な心で美德や努力をたたえてください。しかしこれは、決して批判があってはならないということではありません。不正を批判し、正すことによってこそ進歩があり、悔い改めることによってこそ強さが生まれてくるからです。人に指摘された過ちを認め、行ないを変えていく人こそ、賢明な人と言えるのです。

私は皆さんに、社会に蔓延している否定論に背を向け、共に交わる人々の持つすばらしい長所に目を向けるよう、またお互いの欠点を指摘し合うのではなく、お互いの長所を語り合うようお願いしたいと思います。何事も悲観的な見方から積極的な見方へ変わるよう、信仰が恐れを超越するよう努力していただきたいと思います。私がまだ若く、人や物事に批判的になりがちだったとき、父はよくこう言ったものです。「悲観論者には貢献という言葉が、無神論者には創造という言葉がない。」

常に物事の暗い面を見ているとどうしても悲観的になってしまいます。そしてそれは往々にして敗北へとつながるのです。深い苦悩の最中に国民を勇気づけた人がいるとしたら、それは英国の首相ウィンストン・チャーチルをおいてほかにいないのではないのでしょうか。第二次世界大戦の最中のことです。英国のロンド

ンが爆撃されていました。ナチの軍隊がオーストリア、チェコスロバキア、フランス、ベルギー、オランダ、ノルウェーを征服し、ロシアに侵入し始めていました。ヨーロッパのほとんどが制圧され、英国が次の犠牲になろうとしていました。危機が迫り、大勢の人々の心が沈みかけていたとき、チャーチルはこう語りかけたのです。

「暗黒の時が来るなど言うのはやめよう。暗黒などではなく、厳しい時とすべきである。今は決して暗黒の時などではない。むしろ我が国始まって以来のすばらしい時である。この時を、我が国の歴史上記念すべき日とするために、皆がそれぞれの立場で本分を発揮できることを、神に感謝しなければならない。」(1941年10月29日、英国ハロースクールでの演説より)

軍隊に大惨劇を招いたフランスのダンケルクでの戦いの後、英国はヨーロッパに侵入し、敵を撃退しようとしていました。しかしそれより1年も前から、人々の間では英国の最期が予言されていたのです。その暗く厳しい時期に、この偉大な人チャーチルはまたもやすばらしい語りかけをしました。ラジオを通じて世に流れた彼の言葉は、私の耳にも届いたのです。「我々は屈してはならない、挫折してはならない。……必ずやフランスにおいて戦う。我々は海上で、大海原で戦いを繰り広げる。大いなる自信と大いなる強さをみなぎらせて戦うのだ。いかなる犠牲を払おうと、我が国を守るために海上で、陸上で戦う。野原で、町中で、そして丘の上で戦う。決して降伏はしない。」(1940年6月4日、英国ロンドン、英国国会における演説より)

英国国民を守り、国を悲劇的結末から救い出したのは、悲観論者たちの批判的な言葉ではなく、戦争という黒雲のはるか彼方に勝利の光を見たこの言葉だったのです。

今日、自分自身に不安を抱いて悩んでいる人が大勢います。それは私もよく承知しています。今の時代は世界的にストレスの多い時代なのです。だれにとっても、つらい時があるでしょう。しかし決して希望を捨てないでください。あきらめないでください。雲間からさし込む光を捕らえてください。皆さんの前にはいろいろな機会が待ち受けているのです。

憂いを暗示する人々の手で、皆さんの可能性が危機にさらされることのないようにしてください。

この勧告は、主の教会の会員である私たちにとっても必要なものです。私たちの中に、批判家のグループがあるように見受けられます。しかも彼らは私たちを滅ぼそうとさえしているように見えるのです。神聖なものをあざけり、私たちが聖なるものと呼んでいるものを汚しているのです。教会の歴史は過ちだらけだと批判する人、必死になって教会初期の指導者の欠点を探し出している人がいます。また教会を理性や道理からはずれていると非難する人々もいます。

これらは、「神の栄光は英智なり。すなわち、光明と真理なり」(教義と聖約93:36)と教える教会に対する痛烈な非難の言葉です。そのような人々は、毎年若人の教育のために多額の資金を費やしているこの教会に対し、重大な罪を犯していることになるのです。私たちが非難するこのような人々は、主のみ業の輝くばかりの栄光を見失っている人々です。私たちのあら探しに夢中になり、主のみ業の偉大さを見逃しているのです。また今や世界中の国々、国語の民の間に信仰の灯をともしているあのニューヨーク州バルマイアで放たれた霊的閃光を見落としているのです。神の介在の必要性を認めようとしない人間の哲学に従う人々は、我々の先祖の心や行ないに深いかかわりのあった聖きみたまの影響を見過ごしてしまうのです。彼らは、宗教というものが知性だけでなく心に関係あるものであるということを認めていないのです。

アメリカの詩人、哲学者であるジョージ・サンタヤナはこのように言っています。

世の人々よ、汝が選ぶのは善人ばかりではない。
知識がありながら、
内なるものに目を背ける者、
それは知者ではない。
心信じる者
その人こそ知者である。

私たちが批判する人々は、膨大な資料の中から、この偉大な教えの基を置くのに大いに貢献した人たちの品性を汚すような事柄を取りあげて、書いているので

す。またそのような文書を好んで読む人は、そうした好ましくない事柄をやっきになって探し出そうとします。このようにして、彼らはいろいろなコースのすばらしい満足のいく食事ではなく、わずかな貧弱な食物しか味わわないでいるのです。

私が特にお願いしたいのは、真理の探究を続けていくときに、各時代で偉大な働きをした人々の弱点や失敗に目をやるのではなく、彼らの良い点を見ていただきたいということです。

私たちの先駆者、先祖たちも人間でした。当然ながら間違いも犯したでしょう。確かにみずから間違いを犯していることを認めた人もいました。しかしそれらの間違いは、彼らの成し遂げた奇しみ業に比べれば、さほど重要ではなかったはずで、過ちを強調し、より大きな善を覆い隠すというのは、風刺漫画を描いているようなものです。風刺漫画はおもしろいかもしれませんが、不正な醜い内容が多いのです。頬にいぼがありながら、なおたくましい整った顔立ちの男性がいます。ところがほかの容貌に比べ、そのいぼだけを極端に強調してしまったり、その写真は正確な写真とは言えません。この世を歩まれた人の中で、完全なお方は、ただひとりでした。主はご自分の完全な組織を設立されるのに、不完全な人間を使ってこられたのです。その内の何人かがたまたま過ちを犯してしまったからといって、あるいは何らかの理由で性格に欠点が見られたからといって、彼らの成し遂げたことの偉大さが変わるわけではないのです。

私がこのような話をするのは、建設的な事柄を求める態度を身につけていただきたいからです。

建設的な態度からは進歩と熱意が生まれます。私たちは歴史に縛られているではありません。この歴史には、み業の基が含まれています。すなわち、イエスキリストの福音の回復に関する状況や出来事が詳しく述べられているのです。私たちがそのときの様子を完璧に捕らえられないとしても、あるいはまた、特定の出来事に関して違った様々な意見が出たとしても、それは別に目新しいことではないのです。たとえば、新約聖書の中に四福音書というのがあります。語調はどれも同じですが、特に強調されている部

分が各著者によって違っているのです。ですから、私たちは、それらをすべて読み、調和させてはじめて、パレスチナの道を歩まれた神の御子の完全なみ姿を捕らえることができるのです。

私は真理を恐れませんが、心から喜び迎える者です。しかし同時に私は、すべての事実が適切な脈絡のもとに、しかもこの教会組織の力を増し、大きく成長させている要素がはっきりと強調される形で提示されることを希望します。私がこのようなことを話す必要性を感じたのは、今日否定的なものを強調し、このみ業の偉大な靈感あふれる部分をまったく無視している人々がいるからなのです。

ここで主知主義なるものについて少々意見を述べてみたいと思います。かつて、教会は主知主義の敵であるという見解を述べた学者がいました。もし彼が、主知主義を「知識は、まったく、あるいは主として純粋な理性から生じるものである」「理性というのは、実体の究極的原理である」という説を奉じる哲学の一分派と見てそう言ったとしたら、私たちはそのような偏狭な解釈で宗教を持ち出すことに断固反対の立場を取ります。「ランダムハウス英和辞典」より引用、p.738) そのような解釈は、人に、また人を通して語りかける聖きみたまの力を排除するものです。

理性に力があるということは信ずるに足ることですが、知識の源は理性だけではないのです。全能者の靈感のもとに与えられた約束が、次のような美しい言葉で述べられています。「神はその聖き『みたま』により、すなわち聖霊の言い^つくし難き賜^{がた}によりて……知識を汝らに与えたまわん。」(教義と聖約121:26)

主のみ業を批判する人文主義者、人の品位を落とす主知主義者たちは、霊的顕れを知らずに語っているだけなのです。彼らはみたまの声を聞いたことがないのです。またそれらを求めようともせず、み声が聞けるようみずからふさわしく整えることもしないために、聞くことができないのです。知識は理性からのみ生ずるものであり、理性の作用であるという考え方の彼らは、聖霊の力によってもたらされるものを受け入れようとはしません。

神につける事柄は、神のみたまによって理解されます。そのみたまこそ確かな



「汝ら最も善き書より智恵ある言葉を探し求めよ。
また正に研究と信仰とによりて学問を求むべし」

(教義と聖約88:118)

ものです。みたまの働きを経験した人々にとって、そのようにして得られた知識は、五感を通して得られたものと同様確かなものなのです。私はこのことを証したいと思います。また教会員のほとんどの方々が、同様に証できるものと確信しています。また絶えず心をみたまの波長に合わせていただきたいと思います。そのようにするとき、私たちの生活は豊かになり、永遠の父なる神に親しみを感ずるのです。そしてほかのいかなる方法でも得られない喜びを味わうことができるでしょう。

世の人を惑わすような議論のわなに、かからないでください。そのようなものは、ほとんどが否定的なもので、好ましくない結果を生むことが多いのです。これから先も、明るい面を見て語り、自信ある態度を養いながら信仰をもって共に歩んでいこうではありませんか。そのようにするとき、強さが強さを生んでいくのです。

救い主が群衆の中を歩いておられたと

き、長い間病気に苦しんでいたひとりの女が主の衣に触れました。そのとき主は、ご自分の中から力が抜けていくのを感じられました。そして主のものであったその力が彼女を強めたのです。これは私たちにも言えることです。

主はペテロに言われました。

「シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ22:31-32)

今日、非常に顕著になっている否定的気運に乗じることのないよう、気をつけたいものです。私たちには頼れるすばらしいもの、立派なもの、美しいものがたくさん与えられています。私たちにはイエス・キリストの福音が与えられているのです。福音は「良きおとずれ」です。主のメッセージは、希望と救いのメッセージです。また主のみ声は、良きことを

伝え知らせる声です。主のみ業は、輝かしい完成されたみ業です。

主は、愛する者たちが悩み沈んでいるときにこのように言われました。「あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27)

これらの確信ある言葉は、私たちの指針となるものです。主こそ、私たちが信頼を置くことのできるお方です。なぜなら、主ご自身と主の約束は決して滅びることがないからです。

(これは、1983年6月のBYUハワイキャンパス卒業式におけるヒンクレイ副管長の式辞をもとにしたものです)

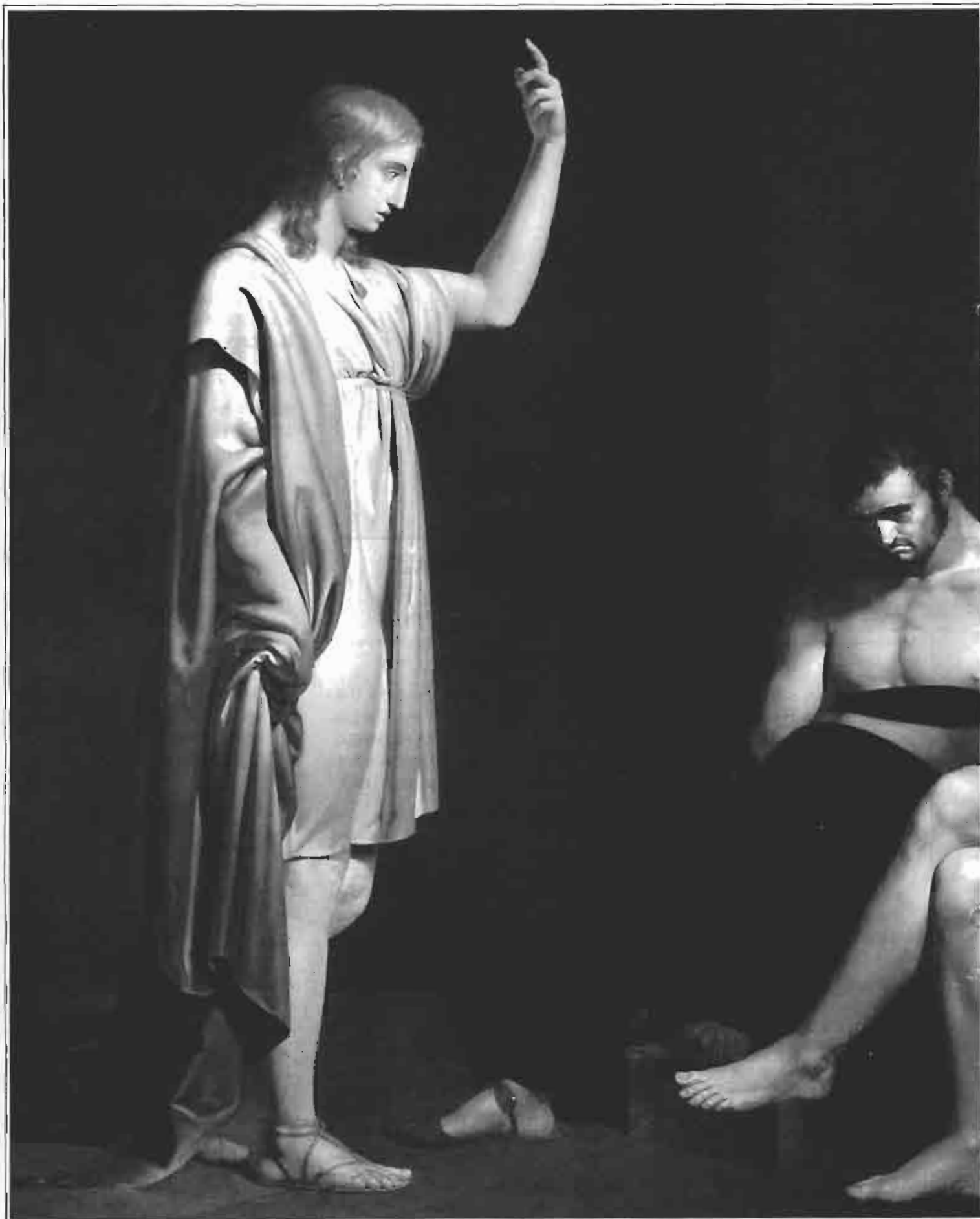
ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングのときに、以下の点を話し合うと良いでしょう。

1. 私たちはこの世の知識だけでなく、霊的な真理を絶えず求めていかなければならない。
2. 真理を求める場合には、善を、美を、そして建設的な事柄を求めていくようにする。
3. 批判家たちは、過去の人々の品位を落とし、さげすもうとする。私たちは、その時代時代に偉大な働きをしてくれた人々の欠点や弱点よりも彼らの長所に目を向けるようにする。
4. 多くの人々が、将来に対して不安を抱いている。決してあきらめることをせず、将来を憂慮する人々によって自分の可能性が危機にさらされることのないようにする。
5. 理性に力があるということは信ずるに足ることであるが、知識の源は理性だけではない。「神はその聖き『みたま』により、すなわち聖霊の言い尽し難き賜によりて……知識を汝らに与えたまわん。」(教義と聖約121:26)

話し合いを進めるために

1. 真理を求め、建設的な見方をするについて自分の意見を述べる。家族にも話してもらおう。
2. 家族で朗読したり話し合ったりすると良いと思われる聖句や引用文がこの記事の中にないだろうか。
3. 訪問の前に家長と打ち合わせた方が良い話し合いができるのではないだろうか。



● 箱仕役と料理役の夢を解き明かすヨゼフ(フランソワ・ジュラル画)



卓越した模範者 ヨセフ

アーサー・R・バセット



子 供たちはいつでも魅力的です。ふたり別々の人間である父親と母親の、心と体、情緒が混ざり合っただけとなった集大成だからです。親の特徴をどんな風に受け継いだか、話し振りやしぐさ、笑い方、姿勢、美的感覚などにも興味を引かれます。

そうしたわけで、私は系図にも興味を持っています。自分がどれだけ先祖の姿を伝えているか、自分の性格や体の特徴、癖がどのあたりの先祖から来ているものかと、考えることがときどきあります。一人一人の先祖について説明した詳しい記録があって、自分と比べてみることでできたら、さぞかしおもしろいでしょう。

残念ながらそのような記録は私たちにありませんし、先祖全体について私たちの知っているところもはなはだ不完全です。ところが意外と言えれば意外、最も信頼に足る系図情報は、一番古い最初の両親についてなのです。

私たちは聖書の初めの記録を読むときに、自分の先祖の歴史を読んでいるのだ、この人たちと自分とはつながっているのだという意識を持っていないことが多いと思います。

イラクを先祖の故郷と考える人はほと

んどいないと思います。しかしイラクは、父祖アブラハムが生まれ育った土地です。シリアはおおかたの人にとって異国としか思われませんが、私たちの先祖のリベカとラケルも、そしてヨセフもシリアで生まれました。ヨセフがイスラエルを故郷とすれば、妻のアセナテはエジプト人であり、しかもエジプトの祭司の娘でした。ですから、エフライムとマナセはエジプト人との混血です。系図をたどれば、私たちの大半が地球人としてつながり、世界で起こる出来事はどれも遠い親類に関係しています。

記録のない時代があったために、これらの昔の先祖との間に隔たりが生じてはいますが、私たちは今も見習うべき模範を彼らに見ることができます。自身の名前や息子のエフライム、マナセといった名前が祝福師の祝福に頻繁に出てくるヨセフが、その良い例です。彼の生き方にならえば、私たちはこの世で市民として傑出するのみならず、次の世では日の光栄を受け継ぐ資格を有する者の中に数えられるでしょう。

ヤコブとラケルの長子

父ヤコブにとって、ヨセフは古今最高

の恋愛の結晶でした。ヨセフのように、母のために14年間を捧げて働いた父を持つ人はまれでしょう。ヤコブのラケルに寄せる愛は大きく、最初の7年が「彼女を愛したので、ただ数日のように思われた」（創世29：20）とモーセは記録しています。

結婚後、ラケルはなかなか子供に恵まれず、そのことで深く悩みました。姉のレアが6人の息子とひとりの娘を産んでから、ラケルに長子ヨセフが恵まれます。3番目の妻ビルハと4番目の妻ジルバがふたりずつ息子を産んだあとのヨセフの誕生でした。

すでにヤコブは90歳に近く、祖父のアブラハムにサラがヤコブの父であるイサクを産んだ年頃になっていました。ヤコブとラケルは、久しく待った子供でしたから、このヨセフを特にかわいがりました。ところがヨセフ誕生のわずか数年後に、ラケルは異国で次男のベニヤミンを難産し、死んでしまいました。ヤコブは17年してヨセフをエジプトに奴隷として取られ、亡きものとあきらめました。四半世紀近い歳月の後に、成人してエジプトのパロに次ぐ位にのぼったヨセフと再会しました。それから30年後に、ヤコブは死んで故郷の土に葬られました。

ヨセフが若き日の17年間をどれほど懐かしんでいたかは興味あるところです。誕生の地であるハランについてはあまり覚えていなかったでしょう。ヨセフが生まれてじきに、ヤコブは家族ともども故郷へ、すなわち今は彼の名を取って呼ばれているイスラエルの地へ帰っているからです。それよりも、父親と祖父であるラバンの緊迫した別離の光景や、あるいは、叔父エサウの怒りから身を隠して以来20年振りの再会に際して不安でいた父ヤコブについて、ヨセフは何を見いだしたのでしょうか。

こうした出来事が起こった頃はまだ幼かったでしょうから、ヨセフの記憶に残ったことはそう多くはなかったと思います。しかし注目すべきことは、両親にとっては、これらの様々な出来事のうちにヨセフの存在が大きかったということです。主に愛されたこの青年は、ことに母の死後、父からこよなく愛されました。

多くの人が即座にヨセフの指導者としての素質を見抜きました。パロは彼を、自分に次ぐ第2の地位に取りたてました。



●エジプトのヨセフ ©プロヒデンス・リソグラフ社

モーセとの血縁関係

2世紀後に生きたモーセにとって、ヨセフはまた別の形で心を捕らえる人物であったことでしょう。モーセは、自分と血のつながった名高いこの人の性格に関心を覚えたに違いありません。イスラエルの民がヨセフのひつぎを携えながら荒野を40年さまよった間、ヨセフはどんな人であろうかと考えたはずです。自分がイスラエルの民をエジプトから導き出す一方で、エジプトへ導き入れてイスラエルの民を救ったこの人について、モーセは何を思ったでしょう。どちらも国では主要な地位にありました。どちらも兄弟

から虐げられています。ふたりとも手腕家であり、主から豊かに祝福されました。

モーセはヨセフのことをどこで知ったのでしょうか。五書を記したときに、ヨセフのことをどれだけ知っていたのでしょうか。その記録の一部が後に別のヨセフ（ジョセフ）に与えられたときのように、啓示の形で教わったのでしょうか。それとも、何年も前にヨセフ自身が残した記録でも読んだのでしょうか。

モーセの関心を特に引いたのは、今はジョセフ・スミス訳の創世記の最後の章にある、ヨセフの予言であったに違いあ

りません。この言葉を初めて読んだとき、モーセはどう感じたことでしょうか。「わたしは、わたしの民をエジプトの地から救いだすために、ひとりの聖見者を起こすであろう。彼はモーセと呼ばれる。この名により、彼は自分があなたの血統であることを知るであろう。彼は王の娘に養われ、その子と呼ばれるからである。」(ジョセフ・スミス訳創世50:29)

ヨセフはさらに、モーセが手に杖を持ち、紅海の水を打って、イスラエルの民を解放に導くであろうと予言しました。モーセの兄アロンが主の代弁者となって、神の律法をイスラエルに伝えることになります。こうした予言を、モーセは予言が成就する前に読んだか、後で読んだか興味あるところです。もし前であったなら、その後の行動に影響を受けたのでしょうか。

モーセに教えられた事柄の中には、ひとつの支族がイスラエルから別れた後にその子孫によって書かれる記録についてのヨセフの予言が含まれていました。その予言は、末日のイスラエルの中から選ばれる聖見者、父の名を取って名づけられるもうひとりのヨセフ(ジョセフ)について語っていました。その予言は、別のヨセフ、すなわちジョセフ・スミスによって翻訳された、ヨセフの末の記録であるモルモン経にも載っています。(IIニーフアイ3章を参照)古のヨセフに寄せるニーフアイ人の関心はヨセフの予言に関するリーハイの言葉によく表われています。「およそ予言の中でヨセフの誌した予言に勝るものは少い。ヨセフは私たちとこれから先の子々孫々について予言をした。その予言は真鍮版に刻んである。」(IIニーフアイ4:2)

これでわかる通り、レーバンの真鍮版にはヨセフの民の記録が載っています。リーハイからさかのぼってヨセフに至る先祖の記録です。そこには、ヨセフの子孫でありながら聖書には載っていないゼニフやゼノクといった予言者たちについても書かれています。彼らも、ほかにはないヨセフについての記事を残しています。例をとれば、モロナイが、ヨセフは野のけものに食われたと言って、兄たちがヤコブに持ち返ったヨセフの上衣のことに触れています。

ヤコブはその上衣の切れ端を、息子の形見として保存しました。やがて死期が近づくと、ヤコブは半世紀以上もしまっておいたその上衣の切れ端を見つめ、ヨセフの子孫の一部は、衣のしっかりと保存されている部分のように取っておかれ、ヨセフの子孫のそのほかの者は衣のあとの部分のように主のみまえに失われるだろうと予言したのです。(アルマ46:24-27参照)

聖書学者の興味の的

聖書学者もヨセフと彼をめぐる話に大きな関心を抱いています。来るべき出来事、とりわけ救い主の生涯に関係する出来事を予言的に暗示する、いわゆる原型なるものを研究している学者たちにとっては、なおさらです。聖書の歴史を原型風に見る好例が、イシマエルとイサクの誕生をモーセの律法とキリストの律法にたとえたパウロの場合です。(ガラテヤ4:22-31参照)大筋で、ヨセフの一生の説明に救い主の生涯がよく投影されています。

ヨセフは父に寵愛された息子で、父から用事を言いつかり、自分を敵視している兄弟たちの所へ遣わされました。ヨセフが父に気に入られて、自分たちを教えたりするのをねたんだ兄弟たちは、ヨセフの言うことに反抗し、虐待して、彼を亡きものにしようとするには命を「取る」のです。穴に投げ込まれるところからエジプトの獄に捕らわれるまでの次の局面は、キリストが地獄の穴に下ることと、霊の獄に行くその使命とに比較できるかもしれません。

結局ヨセフは獄屋から出され、王に次ぐ第2の地位を得ます。兄弟たちに奪われた(体の象徴である)着物は豪華な衣装に変わり、彼の前では皆が頭を下げます。彼は高位に上って兄弟たちの救い手となり、許しを与え、あたかも命のパンを与えるように彼らを養います。

ヨセフと兄弟たちをテーマに、4巻もの本を書いたトーマス・マンのような文学者たちに限らず、聖書学者たちがヨセフに引き付けられるわけはよくわかります。しかし私は、子孫である私たちこそ、ヨセフに深い関心を寄せてしかるべきだと思うのです。彼は歴史上、宗教上の偉



●兄たちに名乗りを上げるヨセフ
©プロビデンス・リソグラフィ社

兄弟たちと再会したときのヨセフには、キリストのような愛があふれていた。ヨセフはうれしさのあまりこぼれ落ちる涙をこらえることができなかった。

人であるばかりか、生き方において、私たちの模範ともなります。

キリストについての知識

ヨセフの模範に従って彼の持つ特性を身につけたなら、生活はより豊かに、より充実したものになるでしょう。彼は私たちに、救い主を知るに至る道を示しています。その意味で、先祖ヨセフ(あるいは先祖の義人のだれか)について学ぶことは、成長して主に近づく訓練になるのです。故ブルース・R・マッコンキー長老は、永遠の生命を得るには主を知らなければならぬことに言及しつつ、究極的に私たちがどれほど主に近くなければいけないかを語っています。彼は総大会の話の中で、次のように言いました。「私たちに永遠の救いを得させる、そうした完全な意味において神を知るとい

ことは、神の知っておられることを知り、神の喜ばれることを喜び、神の経験されることを経験することである。新約聖書の言葉で言えば、私たちは『神に似た者』とならなければならない。』（「大会報告」1966年4月）

使徒ペテロは、キリストを知るにはどのような特性を身につけたらよいかということについて語った中で、次のように言っています。

「力の限りを尽くして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、

知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、

信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい。」

そしてペテロはこう続けています。

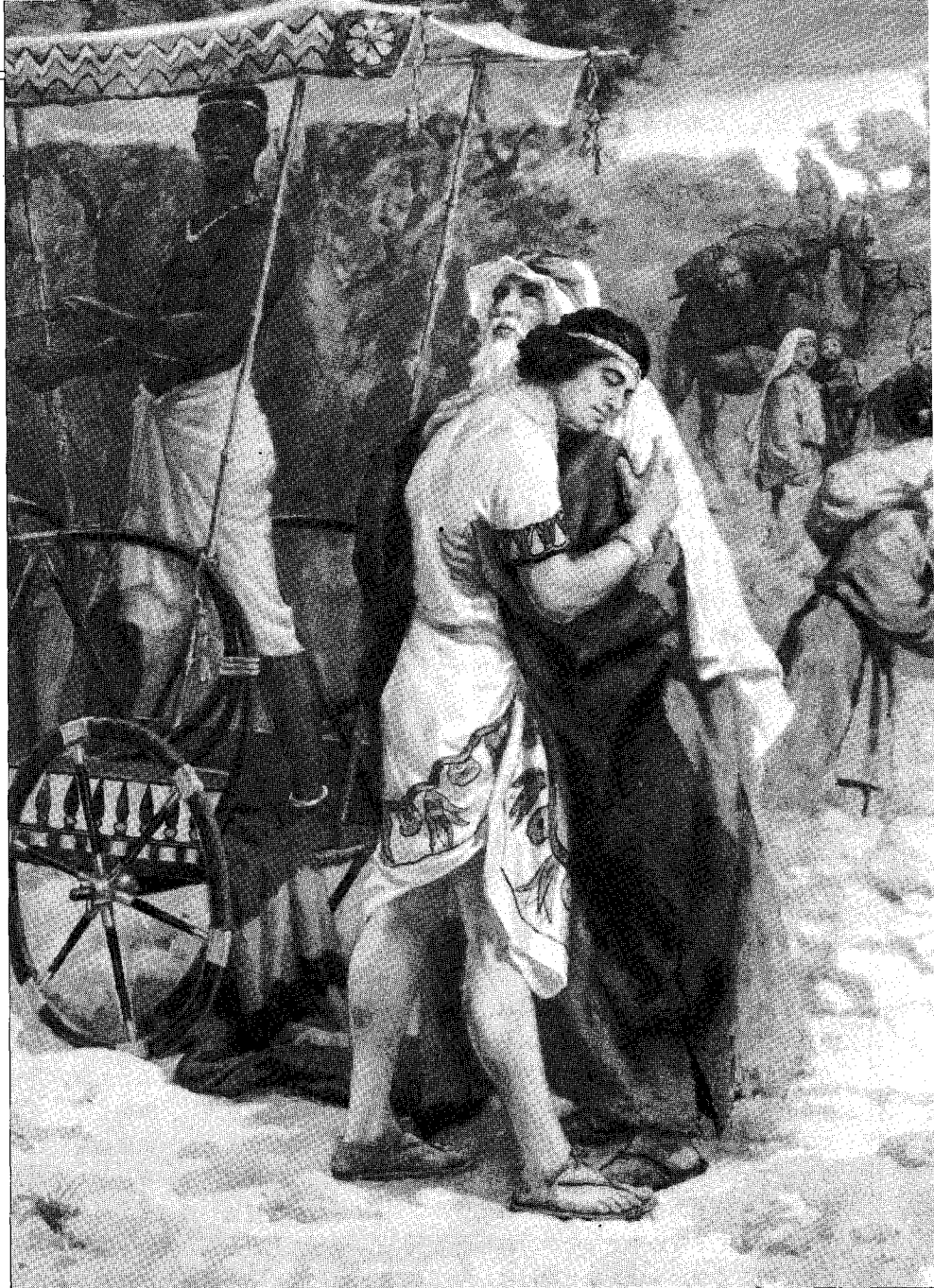
「これらのものがあなたがたに備わって、いよいよ豊かになるならば、わたしたちの主イエス・キリストを知る知識について、あなたがたは、怠る者、実を結ばない者となることはないであろう。」（IIペテロ1：5-8）

主の方法と主の約束に信頼を寄せることを含めた神への信仰が第1歩です。神の示された道に従うには、勇気が、ペテロの言う徳が、そして理解が必要です。さらに、自分の心を神のみこころに従わせる節制、つまり自制心が必要です。また、キリスト教徒としての努力の成果を見るまでには、忍耐が要求されます。主の道を理解して神に近くあろうと努める信心が要求されるのです。そして最後に、兄弟愛を深め、その気持ちを愛にまで、つまりキリストの純粋な愛、キリストのような愛、キリストを愛する愛にまで変えていくことが求められます。

ヨセフの信仰と徳

ヨセフはそうした特質の具現者でした。これらの性質はヨセフの中に豊かに宿っていました。神への信仰は極限近くにまで試されています。神に見捨てられたと感じてしかるべき人がいるとすれば、それは、夢にあった神のお告げを伝えたために拒絶され、奴隷に売られ、神の戒めを守ろうとしたために責めを受け、獄屋に入れられて2年以上も拘禁されたヨセフでしょう。

同名のジョセフ・スミスも似たような



●父をいたわるヨセフ(トピン画) ©プロビデンス・リソグラフ社

エジプトに売られたヨセフがとうに死んだと思っていたヤコブ。族長ヤコブがヨセフと再会したのは四半世紀もたってからのことだった。

苦難に遭い、牢獄の中から「お、神よ、汝は何所に在したもうや」（教義と聖約121：1）と叫びました。エジプトのヨセフも同じような気持ちであったに違いありませんが、信仰が揺らいだことを示すような記録はどこにも残っていません。それどころか、ヨセフは自分に起きると

の出来事にも神のみ手を感じていました。

先に述べた、キリストを知るために身につけるべき特質としてペテロが第2にあげた徳は、ポテパルの妻との事件でヨセフが示した純潔にも見られますが、本来もっと広い意味を持っています。徳(virtue)の根源であるvirはvirile(男

らしい)という言葉に関連があり、勇気、力といった語感もあるのです。「人の子」と呼ばれたイエスに似て、ヨセフの生き方は男性と女性両方の注目を集めました。彼にひかれたのはポテパルの妻のような女性だけではありません。多くの人が、会うと即座にヨセフの指導者としての素質を見抜きました。ポテパルはヨセフに家をつかさどらせ、持ち物をみな彼の手ゆだねました。獄屋番はすべての囚人をヨセフにゆだね、パロは彼を、自分に次ぐ第2の地位に取り立てました。

ヨセフの知識と忍耐

ペテロは、「徳に知識を」加えなさいと書いています。神が弟子たちの中に求めておられるのは賢さです。キリストは、「だから、へびのように賢く、はどのように素直であれ」(マタイ10:16)と言われました。パウロは、「兄弟たちよ。物の考えかたでは、子供となつてはいけない。悪事については幼な子となるのはよいが、考えかたでは、おとなとなりなさい」(Iコリント14:20)と言っています。盲目の信仰は、キリストの弟子としては不十分です。

羊飼いかから身を興して権勢を得たことを考えると、ヨセフの蓄積したであろう知識や知恵がどのようなものであったかわかってきます。彼はまず、主に聞き従うことから知識を得たと考えられますが、エジプトの支配層にあって、特に穀物やエジプト国土の管理を要求されたということからも、その知識に注目すべきでしょう。ヨセフはパロの夢を解き明かしてから、「それゆえパロは今、さとく、かつ賢い人を尋ね出してエジプトの国を治めさせなさい」と勧めました。パロはそれに対して、「あなたのようにさとく賢い者はない」(創世41:33,39)と答えています。これは、パロがヨセフの霊的な力を認めた発言と取れますが、また、実務面においてもヨセフの知恵が本物であることを証拠だててもいます。

ヨセフの自制心や忍耐は、その生き方に如実に表われています。ポテパルの妻との事件や、長い牢獄生活でも主を一心に信頼していたことでそれがわかります。ユダヤ人の歴史家ヨセフスは、幽囚生活についてのヨセフの態度を、興味深い言

葉で論評しました。ヨセフスは、実にピラトを面前にしたキリストを思わせる言葉でこう記録しています。「さて、いっさいを神の手に委ねていたヨセフは、自分の身にふりかかったこの事件について何の弁解もしなければ、真相の暴露なども行わずに、ただおとなしく監禁され身の不自由に耐えていた。災禍の原因や事の真相を知っている神が、彼を縛りあげた人びとよりも力のあることをいずれば示されると確信していたのである。」(フラウィウス・ヨセフス著、秦剛平訳「ユダヤ古代誌」第2巻5章1節、山本書店発行)

ヨセフの信心と愛

敬虔さ、あるいは信心も、ヨセフの人となりを生形作っていました。彼の祈りは何も記録されてはいませんが、ヨセフの話の全体から、彼は主と近い人であったと感じます。ヨセフの生活の一つ一つの事件に神のみ手があります。ポテパルの妻の誘いに対しては、神への敵対行為だということで拒絶しました。エジプトで兄弟たちと再会したときは、エジプトに売られたのは彼らの前に道を備えるための主の方法であったと言って、報復を心配する兄弟たちの気持ちを静めました。

ヨセフのキリストのような気質、特に兄弟愛や愛という特性がよくわかるのは、ヨセフと兄弟たちの間柄を考えたときです。ヨセフは息子のマナセの命名にあたって、「神がわたしにすべての苦難と父の家のすべての事を忘れさせられた」(創世41:51)と、心の内を述べています。22年も経って兄たちと出会ったときのヨセフの衝撃はどんなだったでしょう。心にはどのような思いが交錯したのでしょうか。このときも、兄たちの気持ちを確かめるまで名乗りをあげなかったところに、忍耐心の強さがうかがわれます。兄弟たちが、ヨセフを奴隷に売った罰だと話し合うのを当のヨセフが聞いている有様ほど、人情味のあふれる光景はないと思います。(ヨセフは通訳者を使って話をしていたので、話が理解できるとはだれも気づいていなかった)ヨセフの対応は厳しいものでした。しかし、神もやむなく私たちに厳しい態度で臨まれることがたびたびあります。二度までも涙をこらえき

れず、それを隠すために部屋を出なければならなかったヨセフを見れば、真から後悔した人を赦す気持ちでいっぱいになった、彼のキリストのような深い愛を感じるのです。

私は先祖ヨセフを、多くの点で尊敬します。その信仰、知識、克己、忍耐、そして敬虔さ。しかし、とりわけすばらしいと思うのは、その兄弟を思うやさしさと愛です。それは彼が持つ一番高い性質で、救い主と、またヨセフの子孫である私たちにも共通する特性です。それは、クリスチャンらしい立派な模範者、世が生んだ偉人のひとり、キリストを真に知ることがどういうことであるかを全子孫に教えてくれたこの先祖の子孫として、私たちが見習うべき特質なのです。

*アーサー・R・バセット：ブリガム・ヤング大学人文学部準教授。オレム・ユタステーク部オレム第3ワード部福音の教義クラス教師

話し合しましょう

「卓越した模範者ヨセフ」を読んだあとで、次の事柄について考えてみましょう。また、家族全体で、福音の勉強をするときに話し合ってみたらどうでしょうか。

1. 「ヨセフの一生の説明に、救い主の生涯がよく投影されています」と述べられています。主はなぜ、こうして事前に暗示されるのだと思いますか。そこから何が学べるのでしょうか。

2. ヨセフは、兄弟たちやポテパルによって虐げられても、神への信仰を続けました。私たちがそのような信仰を持つにはどうしたらよいのでしょうか。

3. 兄弟からどんな仕打ちを受けても、ヨセフは自分から彼らを許しました。このような謙遜さや愛を養うには、家庭でどのようなことをしたらよいのでしょうか。どうすれば、ヨセフのようなクリスチャンらしい方法で人を愛せるのでしょうか。

4. ほかにどんな性質を、ヨセフから学べますか。すべてに、救い主を見習うように努力するヨセフの模範に、どうすれば私たちが従うことができるのでしょうか。

※

絶えず祈れ

ジェームズ・T・デューク

自己への語りかけの代わりに

天父へ語りかけたとすれば、

それは本質的な意味で

絶えず祈っていることになるのです。

オ ナイダの小山で語られた偉大な説教の中で、貧しさに打ちひしがれたゾーラム人にアルマが教えたものは、信仰と従順の原則でした。話はさらに礼拝に向けられて、アルマはゼノスの教えについて触れています。アルマの証を聞いたアミュレクは立ち上がり、自分の証を述べるとともに、民がゼノスと同じように祈ることを熱心に勧めました。

「それであるから私の兄弟らよ、ねがわくはあなたたちが悔改めを生ずる信仰を起し、神が自分たちを憐みたまうよう、神の御名によって祈り始めることを神が許したまわんことを。

神は人を救う大能を具えたもうから、神に憐みを求めよ。

へりくだってたえず神に祈れ。

牧場に居る時は、あなたたちの家畜の群について神に祈れ。

家に居る時はあなたたちの家族全体について朝も昼も晩も神に祈れ。

あなたたちの敵の力を防ぐことができるように神に祈れ。

一切の義しいことに敵対する悪魔を防ぐことができるように神に祈れ。

あなたたちの田畑の収穫が豊であるよう、その作物について神に祈れ。

牧場にあるあなたたちの家畜がふえるように神に祈れ。

こればかりではない、あなたたちが一人で部屋に居るときも、秘密の所に居るときも、また野に居るときも心にあることをうち明けて祈れ。

声をあげて主に祈らない時でも、自分の為また自分のまわりの人々の為を思ってたえず心の中で主に祈れ。」(アルマ 34：17-27)

何年もの間、私はどうしたら「たえず

心の中で主に祈」ることができるか思いめぐらしてきました。そして、天父と絶えず心を通わせるための扉の鍵を見つけたのです。

私は担当している社会学の生徒たちと、人間の行動に関する分析の権威であるジョージ・ハーバート・ミードの著作についてよく話し合います。ジョージ・ミードが特に興味を持ったのは、人の思いとその思いがどのように作用するかということでした。彼の解説によれば、思考の過程は単純で両者は深いつながりがあるということです。ミードによると、思考とは本質的には自己と自己が交わす会話です。「私たちは自己の語りかけを聞くことができる。私たちの言葉の意味するところは、他者へのとまったく同じに自身へも向けられている。」「思い——個人と社会」シカゴ大学出版、p.62)

これによって、私を取りとめのないことを考えているときに私の心がどう働くか容易に理解できます。唇は動かず、だれも私の言葉を聞き取ることはできません。それでも私自身への語りかけは、ほとんど休みなく続いているのです。「ごみを出す時間だよ。(伝道中の息子の)デイブはきょうは何をしているだろうか。彼のいるミネアポリスは、きょうは寒くないといいんだが。さてと、出かけるのでしょうか。さもないと仕事に遅れるぞ。あれ、昨日は車にガソリンを入れなかったな。仕事場までガソリンがもたないかもしれない。学校へ行く途中で寄る時間はあるかな」といった具合です。

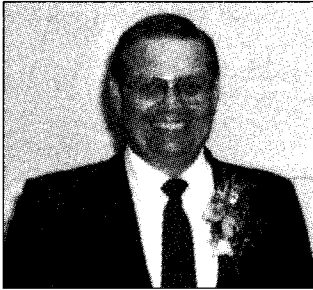
もしもこのような心の中の思いが自己との会話であるなら、それを神との対話に変えられないものでしょうか。祈りは心の中の思いと大して違いはありません。

実際のところ、類似点が多いのです。自己への語りかけの代わりに天父へ語りかけたとすれば、すなわち私の心の中の思いが祈りとなるわけです。私の生活のあらゆる面に、あらゆる決定に、天父に介在していただけたらどうでしょうか。まさにアミュレクが言っているように、本質的な意味で絶えず祈っていることになるのです。

この考え方によれば、私はもっと頻繁に「たえず心の中で祈」っているわけです。そして天父はいつも私の話を聞いてくれる友、いつでもどこでも傍らにいてくれる友になります。私の心の中の思いが神に向けられるなら、それは一層有意義で神聖なものとなります。

「デイブはきょうはどうしているだろうか。父よ、どうかきょうもデイブを見守りたまえ。汝の福音を求めたる者に彼を遣わせたまえ。かくもすばらしい息子を育てさせていただきましたことと、彼が喜んで汝に仕えようとする心、その良心に感謝申しあげます。さあ出かけるとしよう、さもないと仕事に遅れてしまいそうだ。……」

もちろん、いつの間にかひとりごとになって、自分だけで納得してしまうこともあります。しかし次第に主が近く感じられ、聖霊の導きがわかるようになっていきます。私の心が和らぎ、天父が私に耳を傾け、しかも愛してくださっていると実感できるひととき、主への私の愛はどんなにか高まることでしょう。私は喜んで父と呼びたいと思います。天父をほめたたえます。私が心の中で絶えず祈るたびに、天父への感謝は日ごとに深まっているのです。



神を敬う生活

アジア地域会長

ウィリアム・R・ブラッドフォード

神の計画とその目的について学んでいくにつれ、確かに天の御父が「天も地もすべてのものを造り」(IIニ一ファイ2:14) たもうたという確信は、いよいよ深まってきます。その目的は、神の子供たちが天父のように完全になることを目指して努力するにあたり、適切な住まいと環境を整えることにありました。

命や光、真理、調和、そのほか天にある神のみどころにかなったあらゆるもののいくばくかを、天の御父はこの地の上にも置かれました。しかし、神の子供たちを訓練する手段として、この地上に反対のものが存在することも許しておかれました。予言者リーハイが息子ヤコブに教えたところによれば、人類が物事の間にある違いについて学び、みずからの経験によって各々の価値を理解できるようにするためには、この地上のすべてのものに反対のものがなければなりませんでした。

こうした反対のものがあるために、私たちは正義が幸福を生じ、罪が悲しみと不幸を生じるといふ道理を知ることができます。また、万物は律法によって支配されており、律法に従うときに——これが「敬虔さ」の意味ですが——神の祝福がもたらされ、律法を無視するとき——逆にこれが「不敬」の意味ですが——罰がもたらされ、不幸になるといふことがわかるのです。

愛、信仰、徳、能力、兄弟の親切、節制、慈悲、謙遜、勤勉、そのほかすべての福音の原則と儀式は、神の子供たちに敬虔さを植え付けるための概念であり、行ないです。人類に啓示されたイエス・キリストの福音とは、こうした特質のすべてを寄せ集めたもの、すなわち、全きものなのです。

以上のことを知ると、罪に対する神のみどころに添った悲しみが生じ、義を行

ない、神の律法に従いたいという強い望みがわき起こってきます。そして、神のみどころにかなう概念の一つ一つに対して理解が深まり、それらを実践していくにしたがい、私たちは聖められ、完全な者になっていきます。

私たちは反対のものに出会うと、混乱したり、困ったり、欺かれたりします。そして選択の必要に迫られます。天父は私たちに自由意志をお与えになったので、私たちは選ぶことができます。しかし自由意志があるために、私たちにはみずから決断を下す権利はあるものの、律法から自由になった訳ではありません。決断が神のみどころにかなったものであろうとなかろうと、律法はそれに伴う結果を必ずもたらします。

人生航路の中で私たちが正しく選択することを天父は望んでおられるので、いくつかの大切な援助手段を人類に与えてくださいました。私たちには祈りという手段があります。私たちは祈りによって直接天に語りかけ、常に最善の答えを受けます。また私たちには良心が与えられています。それはみたまのささやきを感じ取る固有の器官で、直観的に私たちになすべきことを告げてくれます。私たちには聖霊がおられます。聖霊は願い求めるなら私たちを訪れ、心に靈感を与え、私たちが行なわなければならない神聖な事柄をすべて教えてくださいます。私たちには永遠の生命の言葉を載せた聖典があります。聖典は、私たちが研究し、従いさえすれば、どのような場合にでも導きを与えてくれます。私たちには、天父の教えを伝えてくれる予言者、聖見者、啓示を受ける方がいます。私たちには両親がいます。また、私たちより以前に決断を下した人々や助言を求めれば指導を与えてくれる人々のあらゆる知恵があります。

福音の回復とともに神権も地上に回復されました。神のみ業を推し進めるために、義人がどれほど神権を行使できるかは驚くほどです。次の聖句を読むと、この重要性が理解できます。

「**而してこの大神権は福音を授け、また王国の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵を保つものなり。**

この故に、これを以て礼式を執り行う時に神の能力顕る。

而して、この神権を以てする礼式と神権の権能なくしては、肉親を持てる人間に神の能力顕ることなし。

そはこれなくしては、何人も神の御顔……を見て生き得る者なければなり。」
(教義と聖約84:19-22)

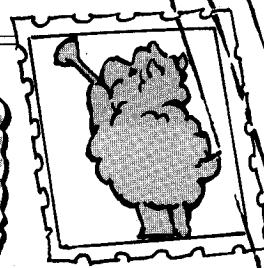
天から与えられる助けを数えあげればきりがありません。私たちはひとり置き去りにされてはいないのです。中でも最大の助けは、救い主イエス・キリストが人類のために行なわれた事柄であり、私たちに示された模範です。

私たちが期待された目標に到達するならば、壮大な可能性と栄光が私たちを待ち受けています。このことを考えると、私たちはモロナイのように、こう叫ばずにはいられません。

「**キリストの御許に**来てキリストによって全くなれ。すべて神のみどころに背くことを捨てよ。もしこのようにして勢いと心と力とをつくして神を愛するならば、神があなたたちに与えたもう恵みは充分である。恵みが充分ならばあなたたちはこの恵みを受けてキリストにより全くなる。」(モロナイ10:32)

神のみどころにかなった生活を送ることにより、その人生に反する悪を防ぎ守る安全な盾を築くことができますように。また天父を敬う生活を通して、神の良き賜を手にできますようにお祈りいたします。

各地のたより



「弱きを強きに変えん」をテーマに

東京地区セミナリーグランプリ'85 開かれる



●セミナリーグランプリの聖句探し競争で選抜された10人。入賞上位5名は以下の方々です。

- 1位——日高明子（東京西ステーク部八王子ワード部）
- 2位——内山光栄（東京ステーク部吉祥寺ワード部）
- 3位——松下みやび（東京南ステーク部大岡山ワード部）
- 4位——中間^{のよ}楊子（東京南ステーク部大岡山ワード部）
- 5位——岡本理加（東京東ステーク部鎌ヶ谷ワード部）

「セ」ミナリーグランプリって何ですか？「青少年ってみんな大変でしょう。学校の友達つき合いではお酒やタバコの誘惑がついてまわるし、教会に来ても気の合う友だちがいなくてつまらないと思っている人もいます。それ以上に自分自身が嫌いという人はセミナリーの生徒の中ですら7割近くを占め、彼らが楽しく明るい信仰生活を送るのはとても大変なことです。そこでたくさんの同じ悩みを持つ仲間が年に一度集まって情報交換したり、証を述べたりしてお互いに励まし合い、たくさんの希望と決心を胸に秘める場なのです。」

11月23日は神様がすばらしい晴天をプレゼントしてくださり、恵まれて9ステーク部、1地方部のセミナリーの生徒が100名、指導者が80余名、東京ステーク部センターに集いました。遠路はるばる何時間もかけて来た生徒、また高熱をおして出席していた生徒もあり、一人一人の意気込みが伝わってくるようでした。

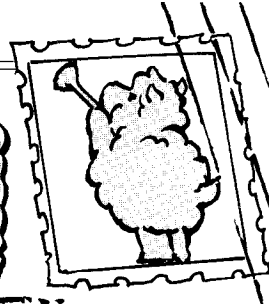
鈴木正三長老の開会のお話のあとに生徒によるアトラクション、引き続いて主催者である教育部の謝花兄弟と井木兄弟が選んだ今年のテーマ「弱きを強きに変えん」のもとに井木兄弟の講演がありました。今年度のセミナリーは新約聖書で、その中よりコリント人への第2の手紙12章10節、「なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである」がテーマ聖句です。レッスンでそれぞれがいろいろなことを学び、考え、そのあとにグループに分かれて話し合いました。自分の体験やセミナリーで学んだことなどを交えてディスカッションは白熱し、たくさんの証や友情が生まれました。一人一人の信仰生活の心得や失敗談などはみんなを勇気づけ、励ましを与えてくれるものとなりました。

ポップダンスを楽しみ、その後再び白熱するシーンが展開されます。聖句探しです。教会教育部では中学3年生から高校3年生までを対象にセミナリープログ

ラムを行ないます。旧約・新約聖書、モルモン経、教会歴史（教義と聖約）を毎年1コースずつ学び、世の悪に打ち勝つための霊の糧を毎週1回得るのです。彼らを守ってくれるマスター聖句が毎年40ずつ与えられ、それを自分のものにするべく聖句探しを行ないます。出題者が問題を読み終えるか終えない内に、その聖句の箇所が開かれているというあの光景には、いつもながら指導者もたじたじです。今年は0.98秒という新記録も飛び出しました。ある意味では、このグランプリでの聖句探しが4月からセミナリーを行なってきた教師と生徒の努力の結実と言えますから、生徒のまなざしは真剣そのものです。「悔やしいっ！」「キャー！だめだわ」などという言葉が会場のあちこちから聞こえてきます。

そのあとは表彰式と証会です。その日全身で味わった証を、またセミナリーで日ごろ得ている証を述べます。メダルをもらった人、今年最後のグランプリが名

各地のたより



「弱きを強きに変えん」をテーマに

東京地区セミナリーグランプリ'85 開かれる



●セミナリーグランプリの聖句探し競争で選ばれた10人。入賞上位5名は以下の方々です。

- 1位——日高明子（東京西ステーキ部八王子ワード部）
- 2位——内山光栄（東京ステーキ部吉祥寺ワード部）
- 3位——松下みやび（東京南ステーキ部大岡山ワード部）
- 4位——中間暢子（東京南ステーキ部大岡山ワード部）
- 5位——岡本理加（東京東ステーキ部鎌ヶ谷ワード部）

「セミナリーグランプリって何ですか？」「青少年ってみんな大変でしょう。学校の友達つき合いではお酒やタバコの誘惑がついてまわるし、教会に来ても気の合う友だちがいなくてつまらないと思っている人もいます。それ以上に自分自身が嫌いという人はセミナリーの生徒の中ですら7割近くを占め、彼らが楽しく明るい信仰生活を送るのはとても大変なことです。そこでたくさんの同じ悩みを持つ仲間が年に一度集まって情報交換したり、証を述べたりしてお互いに励まし合い、たくさんの希望と決心を胸に秘める場なのです。」

11月23日は神様がすばらしい晴天をプレゼントしてくださり、恵まれて9ステーキ部、1地方部のセミナリーの生徒が100名、指導者が80余名、東京ステーキ部センターに集いました。遠路はるばる何時間もかけて来た生徒、また高熱を出席していた生徒もあり、一人一人の意気込みが伝わってくるようでした。

鈴木正三長老の開会のお話のあとに生徒によるアトラクション、引き続いて主催者である教育部の謝花兄弟と井木兄弟が選んだ今年のテーマ「弱きを強きに変えん」のもとに井木兄弟の講演がありました。今年度のセミナリーは新約聖書で、その中よりコリント人への第2の手紙12章10節、「なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである」がテーマ聖句です。レッスンでそれぞれがいろいろなことを学び、考え、そのあとにグループに分かれて話し合いました。自分の体験やセミナリーで学んだことなどを交えてディスカッションは白熱し、たくさんの証や友情が生まれました。一人一人の信仰生活の心得や失敗談などはみんなを勇気づけ、励ましを与えてくれるものとなりました。

ポップダンスを楽しみ、その後再び白熱するシーンが展開されます。聖句探しです。教会教育部では中学3年生から高校3年生までを対象にセミナリープログ

ラムを行ないます。旧約・新約聖書、モルモン経、教会歴史（教義と聖約）を毎年1コースずつ学び、世の悪に打ち勝つための霊の糧を毎週1回得るのです。彼らを守ってくれるマスター聖句が毎年40ずつ与えられ、それを自分のものにするべく聖句探しを行ないます。出題者が問題を読み終えるか終えない内に、その聖句の箇所が開かれているというあの光景には、いつもながら指導者もたじたじです。今年は0.98秒という新記録も飛び出しました。ある意味では、このグランプリでの聖句探しが4月からセミナリーを行なってきた教師と生徒の努力の結実と言えますから、生徒のまなざしは真剣そのものです。「悔やしいっ！」「キャー！だめだわ」などという言葉が会場のあちこちから聞こえてきます。

そのあとは表彰式と証会です。その日全身で味わった証を、またセミナリーで日ごろ得ている証を述べます。メダルをもらった人、今年最後のグランプリが名

各地のたより

残おしい人など様々な思いで証をします。

「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる。」(IIコリント12:9) 一人一人が証を聞き、また証を述べながらどのように決心したでしょうか。しかし少なくともひとつは同じ決心をしたはずです。生徒も教師も明日に向かって心の中で叫んでいました。「明日からはセミナーをもっとまじめにやるぞ!」

セミナーグランプリももう4回目になり、卒業生も続々と伝道に出ています。卒業生にとってグランプリは特別な思い出として心に残っているでしょう。まだまだセミナープログラム自体が一般によく知られていませんが、早朝眠い目を

こすりながら、またクラブで疲れたあと、セミナーのクラスに向かう青少年に注目していただきたいと思います。今や青少年でない人が、セミナーのテキストを購入して勉強するのが静かなブームを呼んでいます。それに加えて、11月23日に東京ステーキ部センターに集ってもらえれば、あの熱い青少年パワーをあなたも体験でき、霊的で楽しいときを共に過ごせたことでしょう。

いつも神様がセミナープログラムを応援して下さることを証いたします。そして、それを支えて下さる指導者の方々と日々頑張っている生徒の皆さんに希望と恵みがありますように。(レポーター:東京ステーキ部三鷹ワード部セミナー教師・高見沢恵)

グ・ラブストーリーII——熱演賞
越谷ワード部:「忘れないで」——アットホーム賞

川越ワード部:「ワンダフルプラン」——ベストパフォーマンス賞

中野ワード部:「静かに考えて」——ステーキ部長会賞

浦和ワード部:「サタデーズ・ウォリア」——ベストワード部賞

今回のテーマは、「一人一人を大切に」ということでしたが、各ワード部の独身成人のメンバーが一致団結し、当日会場に集えない会員もなんらかの形で参加するなどみんなで作りあげたすばらしい芸術祭でした。演技や歌もさることながら、大道具、小道具、照明、音響、衣装などすべての面において質の高さを感じさせ、各ワード部の意気込みが伝わってきた発表でもありました。

練習は、すべてのワード部が独身成人プログラムの時間以外にも、登校や出勤前の時間、夜の空いている時間を使うなどして、寸暇を惜しんで熱心に行なわれました。人数の足りないワード部では、お休み会員や求道者の協力を得、福音をテーマとした作品を共に演じました。これにより何人かのお休み会員が再び教会に集うようになり、また証を得た求道者がバプテスマを受けるという結果となりました。そのほかにも、ある姉妹は聴覚に障害があるにもかかわらず、人一倍練習を積んで音楽に合わせてダンスが踊れるようになりました。また発表の模様をビデオに録画したワード部や、好評のため再演を計画しているワード部もあります。

この芸術祭を振り返ってみると、参加した一人一人が何かをつかみ、証を得ることができたように思います。また独身成人のメンバーとして兄弟愛を育み、強い絆を結ぶことができました。また招待されていた一般の方々にも、福音や教会に対して良い思いを抱いていただくことができたと思います。参加した兄弟姉妹全員が満足感と達成感を得ることのできた芸術祭であったと確信しています。(レポーター:東京北ステーキ部川越ワード部・溝渕理泰、中野ワード部・酒井智子)

東京北ステーキ部芸術祭

—5つのワード部による充実した発表—



●独身成人主催の芸術祭でミュージカルの発表を行なう中野ワード部の姉妹たち

去る11月23日、東京北ステーキ部中野・豊島ワード部ホールで独身成人主催の芸術祭が行なわれました。独身成人評議会において、各ワード部の一人一人が力を合わせて何かを作りあげようとの声があがり、豊島ワード部が中心となって準備が進められました。

ステーキ部内の5つのワード部はそれぞれ40分の持ち時間を与えられており、

演劇やミュージカルなど趣向を凝らした発表が行なわれました。発表は休憩時間などを含めると5時間にも及びましたが、それを感じさせないほどのすばらしいものでした。

また表彰の形式はどのワード部が一番というのではなく、公平に賞が与えられました。結果は次のとおりです。

豊島ワード部:「ネバーエンディン

各地のたより

実りある伝道

—ただいま定着率
ほぼ100パーセント—

東京東ステーキ部松戸ワード部

アジア地域会長のウィリアム・R・ブラッドフォード長老が4年前に日本担当となられたときに、「宣教師や会員が清くなることが伝道の目的であり、その結果として多くの良いバプテスマが生まれる」と言われました。東京東ステーキ部の松戸ワード部では、まさにそのような伝道プログラムが行なわれています。

七十人グループの増田兄弟や徳田兄弟が、専任宣教師としての伝道中の体験を元に、祈りをもってブラッドフォード長老の言葉を実践する伝道プログラムを打ち出してくれました。これは、会員が求道者に最大の関心を払い、宣教師の活動、たとえば家庭集会を助けることによって、みたまのある伝道を行なうというものです。毎日曜日の朝、宣教師と七十人グループが伝道調整集会を開き、その場で求道者に関する情報を交換し、まとめたものを監督会やほかの組織に知らせます。監督会は、聖餐会で求道者を紹介するときに、会員が関心を持つようにその人の住所、誕生日、趣味などを交えて紹介します。こうすることにより、会員と求道者の距離が一段と縮まり、フェロウシップが密になりました。

私たちは真の伝道の精神に目ざめることができました。充実した伝道活動によって良い気持ちがわき、これが明日への伝道の活力を生むことを実感しております。

現在、英会話委員会を中心に英会話プログラムが活発に行なわれており、宣教師と一体となったりフェラルプログラムが進められております。求道者は教会の活動に参加しながら福音を深く学ぶことができるため、会員も求道者に改宗前から密度の濃いフェロウシップができます。この結果、改宗者の数が急ピッチで増加しています。1984-85年の2年間に20人が改宗し、定着率はほぼ100パーセントという、



●毎週日曜日の朝に行なわれる伝道調整集会

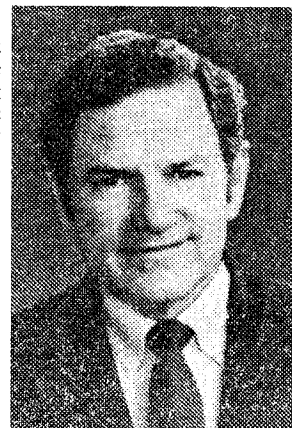
主の望まれた成果を得ることができました。最近、キース・W・ウィルコックス副会長の指示により、会員伝道クラスのプログラムが進められておりますが、当松戸ワード部でも徳田兄弟が教師となって活発に行なわれており、会員伝道の気運

が一段と高まってきました。ブラッドフォード長老の勧め「実りある伝道プログラム」に近づいたと確信しております。そして、この真の伝道精神をいつまでも持ち続けたいと思います。(レポーター：松戸ワード部第二副監督・武井進)

新聞からの話題

▼「日本経済新聞」
昭和60年10月30日付

ワールド・ビジネスマン



米イーストマン・コダック社長
ケイ・R・ホイットモア氏

Eastman Kodak Company

本社 ニューヨーク州ロチェスター
従業員 12万3,900人
売上高 106億ドル (1984年)
日本の窓口 日本コダック
(東京都中央区日本橋室町4-1-2 柳屋大洋ビル)
(注)売上高、従業員数は連結決算ベース

日本市場、技術の供給源に

△コダック社は四半後に日本進出百周年を迎える。来年半ばには東証一部に上場する。強力な競争相手がいる日本市場はコダックが攻め切れない唯一の国だ。それだけに最近の対日攻勢はめざましい。

「日本は写真関連製品分野で米國に次ぐ世界第二位の市場であり、われわれにとって重要な市場だ。東証一部に上場するほか、二年後に研究開発センターを設置するのをもろうとした考えのあらわれである。この一年間で日本事業部のスタッフはそれまでに比へ三倍の約八十人になった。

△コダック社は四半後に日本進出百周年を迎える。来年半ばには東証一部に上場する。強力な競争相手がいる日本市場はコダックが攻め切れない唯一の国だ。それだけに最近の対日攻勢はめざましい。

「日本は重要な市場であるだけでなく、技術の供給源でもある。高度な技術と人材といった日本の優れた資源を取り入れることをめざしている。当社の知恵と日本の技術、市場に関する情報などを互いに活用することによって、強力な力を発揮できる。特にカーのチノンに資本参加したほか、日本企業からVTR (ビデオテープレコーダー) や複写機の供給を受け、日本のように変化の激しい市場であるので、日本の企業とグループを形成して顧客のニーズに敏感に反応していく考えだ。」

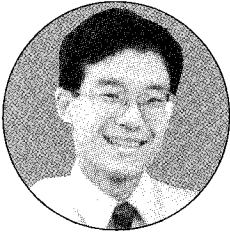
△コダック社はここ数年、業績が停滞しており、エグゼレント・カンパニーの神話が崩れたといわれている。

写真関連製品だけではなく、限界があり、ハイテク製品分野への多角化が課題。われわれは新しい目標をかかげた。それは当社の売上高を自由世界の経済成長率の倍のペースで伸ばし、純利益を世界のトップ企業二十五社の中に入るといふことだ。売上高の約八割を占める写真関連製品は年率五・六％の成長が見込める。今年の研究開発費は八億、設備投資は十五億、このほかに、多角化を進めている情報処理、健康医療部門などの成長が期待でき、決して高い目標ではない。

△ユタ州ソルトレーク出身。ユタ大学で化学、マサチューセッツ工科大学で経営学を学び、五十年にコダック社に技術者として入社。八一年に執行副社長兼写真事業本部長、八三年七月に社長に就任。敬称は「モルモン教徒」。夫人との間に六人の子供がいる。趣味は滑降スキー。去年は(故郷の)ユタで家族と滑った。53歳。

各地のたより

■台湾台中伝道部4人の宣教師からのレポート



異国の地での伝道

大阪北ステーク部京都洛北ワード部出身
北村 富弘

族で最初の改宗者は、自分が新しい福音の光の中で成長するとともに、日々の生活で家族との関係も改善しなければなりません。私は求道者に自分自身の経験を通してお話しできることをうれしく思います。以前困難に思っていたことも主の方法で克服するならば、後に祝福に転じることを知り、主は私たちに良い訓練を与えてくださっていることを感謝しています。私はどのような苦難をも訓練として喜び、主に従う者になりたいです。

人の成長にとって、愛ある言葉と証は無くしてはならないものです。イエス・キリストの証を聞く機会の少ない方々にいつも言葉と行ないにより愛を示し、イエス・キリストの光を分かち合うように努力したいと思います。

キリストの模範と教えは私の成長の糧であり、日々の生活もこれにより生きることが出来ます。金版を守り、モルモン経を翻訳し、この教会を回復してくださいました予言者ジョセフ・スミスに心から感謝しています。(きたむら・とみひろ 24歳)

私は、昨年6月に台湾での伝道を始めました。台湾にはふたつの伝道部があり、南半分が台湾台中伝道部の伝道地域です。台湾は一年中暖かで、台中市の1月の平均気温は16℃です。

こちらではまだ始めたばかりの伝道ですが、日本で会員として伝道していたときは別のことに気づき、証と福音への理解を増すことができました。

こちらの公用語は中国語です。台湾で働き始めてすぐの頃は、人々の会話もよくわからず、もちろん聖餐会の証もわかりませんでした。その頃私は、自身の信仰や証は自分ひとりで得ているものではないことに気づかされました。兄弟姉妹や求道者と意思がうまく通じないとき、歯がゆい思いでした。日本にいるときは何気なく人々と言葉を交わしていましたが、福音の祝福を互いに分かち合い、理解し合い、励まし合うときに、霊が高められ、証が強められ、愛に満たされていたのだと気づきました。

こちらに住み始めて1カ月ほどしたとき、同じアパートに住んでいた笹岡長老と一緒に朝の勉強会を始めました。30分ほどのものでしたが、ふたりで話し合ううちにみたまの導きを受け、互いに成長することができました。また、送られてきたJMTC(宣教師訓練センター)の同期生の証集を読み、大変励まされました。

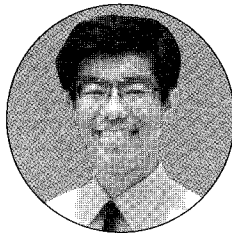
私の霊の成長にとって母国語による生きた証と励まし、また霊的な方々との少しの会話でさえも非常に大切であることを身にしみて知りました。

言葉による意思の疎通が十分に取れないというこの体験は、聾啞者の方々の気持ち理解する助けにもなりました。ま

た、日本語を熱心に学んで働いてくださる日本のアメリカ人宣教師に、尊敬の念を覚えました。

昨年の10月までに3つの支部で伝道しましたが、こちらでは台湾のほかの多くの支部ともども、これからホームティーチングが始められるところでした。私たち宣教師も会員の方々と共に、ホームティーチングを始められるように準備をしています。改宗者にとってホームティーチャーのこまやかな助けは欠かせません。

宣教師としてレッスンをしている、私は教会員ではない家庭で育ったことも貴重な経験であることに気づきました。家



「主の愛を全身で感じます」

大阪ステーク部枚方ワード部出身
笹岡 俊之

私が伝道に出る決心をしたのは、1年半ほど前の夏のワード部キャンプのときでした。それまで伝道に「出たい!出るべきだ!」とは考えていましたが、いつ準備を始めていつ頃伝道に出ようかまでは決めかねていました。しかし、そのキャンプの夜、枚方ひらかたのみんなの話題が伝道になり、一人一人に「伝道に出る」という強い意志があるのを知り、私も心を大きく動かされました。

夜が更けるにつれ、話し合いも真剣なものとなり、最終的には、この1年みんな互いに助け合い、一緒に伝道に出ようと決心するに至りました。そのときの一

人一人の瞳には輝きがあり、またそこに平安と確かな「みたま」の存在を感じたのを今でも覚えています。

あれから1年、当時の仲間から6人がそれぞれの任地に召され、早くも1年近くになろうとしています。台湾での伝道は、日本で想像していたよりも苦しいものでした。何と言っても言葉が通じないのには閉口しました。しかし、求道者や同僚と心を通わすことができない日々、毎日がものすごく長く感じるそんな日々を4カ月過ごしたある日、自分でも信じられないくらいに中国語が理解できるようになっていたのです。これは私にとっ

各地のたより

て、奇跡でした。しかも、自分の霊性の低い日や高慢になっているときは聞いてわからないことが多いのです。神様は私が謙遜になって主の助けを求めるとき、いつも助けてくださいました。心から感謝しています。今私はこの台湾の地で、日本では経験できなかったような経験を、毎日成長させていただいています。この台湾では多くのことを学びましたが、とりわけ忍耐すること、謙遜になることの大切さを知りました。これは帰国後の私の信仰生活の中で最も大切な宝物となることでしょう。そして、このふたつの聖句、アルマ書32章13-14節と教義と聖約35章13-15節は、今の私の生活の支えになっています。

さらにもうひとつ、私は、台湾での宣

教師生活の中で、「主は確かに生きておられ、いつでも私たちを見守ってくださいている」ということを知りました。頭では知っていました。でも今は、主の愛と助けを毎日全身で感じています。だから、お伝えしたいと思います。伝道を準備している日本の若い人たちに、「主はあなたが宣教師になるように心から望んでおられる」ということを。そして私と同じように体で主の愛を感じてもらいたいと思います。

このすばらしき伝道の召しに心から感謝しています。愛する両親や教会の仲間たちの祈りに感謝しています。伝道はすばらしいです。(ささおか・としゆき 22歳)

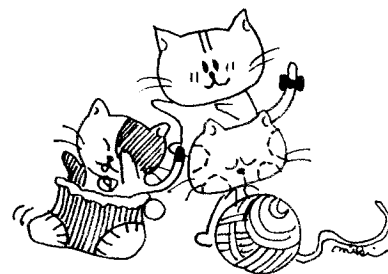
後に、休学のために必要な書類に署名をしてもらうため、再び帰りました。父は署名をしてくれ、反対していた母も、その後の手続きを済ませたかどうか心配してくれました。

両親の許可もさることながら、神様の許可がないと伝道には出られません。モルモン経には、モーサヤ王の息子たちが、伝道させてくれるように父に嘆願したことが書かれてあります。私も神様に伝道に行かせてくださるようにお祈りすることにしました。何日か祈りを続けていると、心に平安を覚えるようになりました。

宣教師の申請書を出し、キンボール大管長からの手紙を待ちました。3月、下宿に帰ると見なれない封筒が郵便箱に入っています。「来たっ！」急いで部屋に持って入り、開くと「台湾台中伝道部」とあります。心臓をドキドキさせながら、すぐ監督に電話をかけました。監督は私が伝道に出られるようにいつも助けてくださいました。その夜、うれしくて顔が締まらなかったのを覚えています。

5月、ステーキ部長から宣教師としての按手を受けました。JMTCでの訓練のあと、2カ月間、東京南伝道部で働き、7月の末、やっと台湾に来ることができました。空港での人々、風景を見て、すぐ台湾が好きになりました。青少年のとき、ある高等評議員の兄弟が次のように言われました。「日本は、ずっと以前より中国からたくさんのもを受けてきました。今度は、日本がお返しをする番ですね」と。

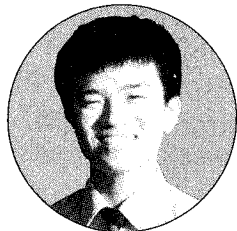
私たちはキンボール大管長が中国大陸での伝道開始に備えて準備するよう願っておられることを知っています。私たち



中国大陸の伝道に先がけて

大阪北ステーキ部京都洛北ワード部出身

佐藤 公治



U MTCに入る前日、中村晴光ステーキ部長からの按手礼の中で「中国の台湾伝道部に召され……」という言葉で中国に行けるといふ気持ちを再び確認することができました。

私は5年前、高校1年生のとき、広島県の尾道で改宗しました。当時、中国での伝道が兄弟たちの間で話題にのぼると興奮して話し合っていた私にとって、台湾で伝道できることはとてもうれしいことでした。その頃、もしかすると、あと3、4年もすれば中国大陸での伝道が始まるかもしれないと単純に思っていました。

高校を卒業し、京都にある大学に入学してからも、中国大陸での伝道が始まりそうにないのを見て、これはまだ無理なのかと思いましたが、台湾と香港に伝道部があることを知り、神様が召してくださるならそこに行きたいと思うようになりました。

1984年12月30日、京都から尾道に帰省

し、両親に伝道に出たい旨を話しました。5日間、折を見ては何度も許可を求めましたが、伝道の具体的計画、目的、意義について不十分な私の説明では、許可を求めるのは厚かましいかのようなのでした。

ところが、丁度、絵の好きな父がこの正月休みを利用して写生に行くということで、神戸まで一緒に行くことにしました。新幹線の中、私はその朝まだ聖典を読んでいたのを思い出し、「聖徒の道」の指導者の言葉を読み始めました。新幹線の中では特に時間が早く感じられ、もうすぐ神戸です。読み進むにつれて、心の中に「この教会は正しい!!」という気持ちが込みあげてきました。そして伝道とは、神様が生きておられることとイエス・キリストが贖い主であることを人々に伝えるに行くことだと強く感じました。降りる間際に父に泣きながら広島弁で「えかろう？(いいでしょう?)」と尋ねると、父は「2年間遊びじゃのお」と言ってくれました。

各地のたより

日本人にも大切な役目を神様が与えられているように思います。

この台湾の地で伝道できる機会を与えてくださった神様に感謝しています。また伝道に出られるよう助けてくださった兄弟姉妹に感謝しています。ここ台湾の地にもすばらしい神権者、姉妹がおられ、私たち宣教師を助けてくださいます。彼らは多くの模範を私たちに示してくれます。

また特に両親に感謝しています。伝道に出て以来、両親が私にしてくれたであ

ろうたくさん助けや愛を伝道中に会う人々の中に見つけるのです。また、家族がとても大切なものであることを模範を通して理解することができます。

この教会は神様の教会です。神様はモルモン経を与えてくださり、真理を知ることができるように助けてくださいます。生きた予言者が私たちを導いてくださいます。聖典と予言者が証しているようにイエス・キリストは私たちの救い主です。祈りを通し、主から力をいただけることを知っています。(さとう・こうじ 20歳)

最初の任地で2カ月、私が中国語を通して教えることのできた福音はひとつもありませんでしたが、転勤前の安息日、急に聖餐会での証を依頼され、一度もしたことの無い中国語での証を述べました。述べ慣れている日本語での証とは違い、台湾の人々にも、とても下手な中国語だったでしょう。でも私の心は聖霊に満たされ、自分の証していることに確信を得ていました。

言葉のギャップがあるにもかかわらず、同僚は私をよく助けてくれ、彼の愛と模範からは多くのことを学びました。そして悲しいときも、楽しいときも、讚美歌は私たちの共通語でした。

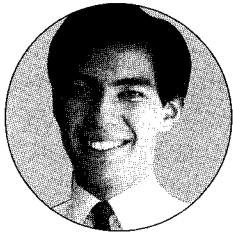
現在、この台中伝道部には、私を含む4人の日本人長老が、また台湾省全部では7人の日本人長老が働いています。

この地で働く日本人宣教師は、戦時中、日本が施していた日本語教育による影響で、標準の中国語は話せないけれど、日本語は話すことができるという年配の人人のために、日本語で伝道できる特権をいただいています。

中国語と日本語による伝道活動をするわけですが、日々の生活を通して得られる証には特別なものがあります。苦しければ苦しいほど、報われたときの喜びは大きいです。この地上での生活をほんの20年そこらしか送っていない私たちが、人々の生活を一転させてしまうほどの力を主から受けるのです。私たちがふさわしければ、主のみたまが共にいてくださり、み旨を行なう器として主に使われます。これ以上のすばらしい経験がほかにあるでしょうか。

伝道に出ることを決断しきれずに毎日を過ごしておられる方も多いのではないかと思います。私もそのひとりでした。しかし、専任宣教師として働く機会をいただいている今、すべてが「恐れ」であったと感じています。

昨日まで知らなかった人々ときょうは楽しく福音を分かち合っています。今まで乗っていた自動車がさびた自転車に変わり、読んでいた雑誌が聖典に変わり、隣に座って楽しく話していた女の子たちが同僚と呼ばれる特別な関係を持った同



「これ以上にすばらしい経験がほかにあるでしょうか」

長崎地方部長崎支部出身
の野 竜一

昨年の9月29日、ポストを見るとソルトレークからの封筒。「来たあ!!」とひとりで叫びながら封を開け、大管長のサインを確認し、「さて任地は……」と目をやると、「Taiwan Taichung Mission」(台湾台中伝道部)と書いてありました。思わずあて名を見返し、母にどう説明しようかと思うのが精いっぱいでした。そして1時間ほどして、買い物から帰ってきたばかりの母に任地を伝えました。もう1年がたっとうしてしまいましたが、そのときの母の驚いた顔を昨日のようにはっきりと覚えています。

父を10年前に亡くしてからというもの、母には何か将来の私に託すものがありました。しかし、多くの方々が示してくださった愛と模範は、宣教師となることに弱腰となっていた私ばかりでなく、母の心をも開き、予想以上に早く同意を得ることができました。そして、私は大学を休学しました。

昨年の11月、JMTC第66期生として訓練を受けた私ですが、中国語なんて一度もかかわったことがないので、期間中、以前台湾で伝道された土持兄弟の助けを得て、語学を少しだけ学びました。しかし、ほとんど話せない状態で12月12日、

クリスマスソングの響く日本を後にしました。

さて、台湾での生活は、予想以上のものでした。日曜日の集会、求道者とのレッスン、教会員の訪問……。証や経験を分かち合うこともできずに、ただ張り子の虎のように左右を見ては笑っている毎日でした。同僚との祈りのときなど、私は日本語、同僚は英語か中国語。アメリカと台湾には生まれた習慣の違いに頭を痛めました。日本で伝道する同期生たちの手紙にうらやましさを覚えざるを得ず。

しかしながら、日本で描いていた伝道にはまだまだ遠いことを体で知らされながらも、たくさんの方々が祈ってくださっているとの確信は、いつでも私に笑顔を取り戻させてくれました。その中で築かれていった証は、とても感動的でした。あるときは、台所で食器を洗いながらも自然と主と共にいてくださるを感じて涙したときもありました。改めて、主が生きてましまし、罪の贖い^{あがな}が私たち一人一人に及ぶこと、モルモン経には確かに神のみ言葉が記されており、この教会は地上における唯一のイエス・キリストの教会であるという確信を得ました。

各地のたより

元気な子供が授かって

一試練に耐える力を
与えてくれる信仰—

仙台ステーキ部福島ワード部
佐藤 礼子



性になりました。こんな私でも、主は伝道の業に使ってくださっています。イエス・キリストの福音は、人を本当に変える力を持っています。主の限りない力は、限りある私を通してたくさんの人々に伝わっていきます。

この台湾にもひとつの神殿が据え置かれ、たくさんの方々が永遠の儀式を受けています。宣教師として、この台湾の地で福音を伝える権能をいただいていることを心から感謝しています。

私にこの機会を許してくれた母に、また忍耐し福音を通して育ててくださった指導者や教師の方々に、助けてくださっている多くの兄弟姉妹の皆さんに感謝しています。

私は、この台湾の地と人々を心から愛しています。この地にシオンのステーキ部が数多く据え置かれ、より多くの人々に福音が伝わるように、そして1日も早く竹のカーテンが開かれ、中国大陸に住む数億という福音を待つ人々のうえに救いの道が与えられるように願ってやみません。

以前、インスティテュートの教師から次のようなジョセフ・フィールディング・スミス大管長の言葉をいただきました。

「私たちの教会の若人は、御父の子供たちの中で最も祝福され、恵まれた人々である。彼らは天の高貴なる者、聖なる行く末を持つ選ばれた種族である。彼らの霊は、福音がこの地上にある時代、すなわち主が末日の大いなる業を推し進める優れた僕を必要とするこの時代まで天にとどめておかれたのである。」

福音に耳を傾けてくださる人々と会うときに、「もっと謙遜にならなければ。もっと働かなければ」と思うと同時に、もっとたくさん働き人が福音を伝えなければならないと感じます。

福音を伝える召しは、日本でも外国でも何ら変わりありません。ただ、全力を傾けるのみです。

「伝道」……それは、若き末日聖徒一人一人が持つ価値ある第一の目標であると感じます。(まとの・りゅういち 22歳)

長 女園香は、昨年8月16日に2930グラムで誕生しました。私の母乳で日ごとにすくすくと成長しています。おむつの交換や洗濯、離乳食を作って食べさせたり、散歩に連れ出したり、入浴させて眠らせたりと、一日中びっちり園香に手がかかってしまいます。でも、この元気な子供が授かったことに私たち夫婦は主の祝福であると心から感謝せずにはいられません。それには次のようなことがあったからです。

私たちには先に、長男が与えられております。勇太は1983年11月20日に3000グラムで生まれ、元気な産声をあげました。ラマーズ法による夫の見守りの中で出産し、私たちは誓約の子が与えられ、親となったことのすばらしさに感激いたしました。ところが、その喜びも束の間、生後5日目から呼吸困難となり、容態が悪化し、検査の結果、肺動脈狭窄三尖弁(右心房と右心室間)閉鎖、心房中隔欠損と複雑な先天性心奇形であることがわかりました。まさに私たちにとって青天の霹靂でした。

でも、悲しんでばかりもいられず、勇太の一生懸命に呼吸し、生きようとする姿に励まされ、保育器の傍らで昼夜をおかずの付きっきりの看護をしました。生後18日目に左の肺動脈のバイパス手術を受け、容態は日ごとに変わり、点滴や肺洗浄、諸検査などに苦しめられている我が子がいたたまれなく、だれにいらだちや怒りをぶつけたらよいのか、何度主につぶやいたことでしょう。でも、我が子を見ると、まさに純真で清い、主からの贈り物であると感じました。

86日目に2度目の右側の同手術を行なったあと、勇太の小さな体は耐え切れずに、私たちの目の前で天に召されていきました。子供を亡くしたというつらい日々が続きました。しかし霊を身近に感じ、次の世の存在を確信することで、勇太にまた会えるという希望がわき、私たち親子は永遠につながっているという思いが喜びをもたらしてくれました。また、この福音は真実であるという証をさらに強めることができました。

それから、今回の妊娠中も子供を断念せざるを得ないような危険な状態がありました。妊娠5カ月に入るとすぐに、突然の破水が起こったのです。胎児を包んでいる膜が破れ、中の羊水が流れ出てくるという状態でした。

入院し、ベッド上で安静にしながらも、羊水が1週間流れ続ける有様に、私は何と子供に恵まれない哀れな女なのかと何度も涙し、ジレンマに陥っておりました。産科の先生から、「胎児に感染の危険があるから、そろそろ処置しましょう」と言われ、「先生、私はどうしても産みたいんです」と嘆願しました。夫はそれまで何度も祝福してくれましたが、さらに特別の祝福をしてくれ、断食しておりました。私はその夜、一晚中主に祈りました。祈りが聞き届けられ、主の祝福があるなら、一晚眠らなくなつてどうってことないという思いでした。

それからというもの、ピタッと羊水流が止まり、まさに奇跡が起こりました。2日後に先生は、「落ち着いてきたので、このまま様子を見ていきましょう」と言われたのです。それからも安静は続きま

各地のたより

したがすっかり落ち着き、羊水は再生され、胎児の心音も元気に脈打ち成長していきました。

今回の出産時も、果たして元気な子が生まれてくるだろうかと心配しました。福島ワード部の兄弟姉妹たちは千羽鶴を作ってください、毎日それを眺めては元気な子が生まれるようにと祈っておりました。夫もまた出産に立ち会ってくれ、「元気な女の子だよ」の声にホッと慰められました。

健全な子が生まれてくることは、普通には当たり前のことですが、私たち夫婦にとっては、それこそが不思議に思えるほど、奇跡とでも言える主からの最大の贈り物でした。世の中には、多くの障害を持った方や苦しんでいる方々がたくさんいらっしゃいますが、私たちの試練は、今思えば、人生の中のほんの1コマでした。信仰は、どのような試練にも耐える

力を与えてくれます。私たちの子育てはこれからですが、いろいろなことにぶつかっても常に主を、頼る腕として歩んでまいりたいと思います。

最近の園香は太り過ぎではないかと心配するほどに、病氣もせず、元気に育っています。親子で泣いたり笑ったりと、にぎやかな毎日ですが、今までのことを振り返れば、「有り難い、有り難い」と思う毎日でもあります。神殿で家族の結び固めを受けることにより、親子が永遠に一緒であることの喜びは何にも勝ります。天父が生きておられ、イエス・キリストは私たちの救い主であること、聖霊が伴侶となって慰め、助けてくださること、末日聖徒イエス・キリスト教会は全地の面における唯一の真の教会であることを心より証申しあげます。(さとう・れいこ 1953年生まれ、福島ワード部扶助協会教師)

父の病氣と私の伝道

—「今は福音を実践するとき」—



福岡伝道部専任宣教師
東京ステーキ部吉祥寺ワード部出身
阿部 美雪

☆…「これは、昨年の春、お腹の赤ちゃんのことや自然の命について考えたときに書いたものです。」

命

岡野伸子

雨が 暖かさを運んでくる
何日も 何日も 降り続きながら
大地は沢山の雨を吸いこんで
お日様が 顔をだせば
たちまち新しい芽が顔をだす

春になる前の雨は
バプテスマの水のよう
新しく生まれてくる命を祝福して
大地に降りそそぎ
自然の命はそれに答えて
日の光の中で両手をいっぱい広げてく

いく度も いく度もめぐる春なのに
いく度めぐって来ても
やっぱり新しい時を感じるのは
命がいつでも尊く 美しいからだろう

(おかの・のぶこ 1959年生まれ、東京西ステーキ部八王子ワード部)



ほんの少し人生を振り返ってみただけでも、そこに多くの神様の導きと恵み、偉大な愛を見つけて驚きます。

親戚の家に下宿していた、中学3年のときに戸別訪問に来られた宣教師に初めて会い、そのとき手渡された1枚の英会話のチラシによって教会に導かれ、それから4年後にバプテスマを受けました。そして今は宣教師として福音を宣べ伝える業についています。

雪の降る寒い中を戸別訪問して、私に1枚のチラシを渡してくださったふたりの宣教師に、心から感謝しています。神様のみ業は偉大です。私がこの地上で福音を知って改宗できたのも単なる偶然ではなく、またほかの人々の改宗も偶然ではなく、確かに神様の導きと助けがあることを知っています。

私が伝道に出ようと決心したのは一昨年の6月でした。ワード部で長老定員会主催の伝道合宿があり、参加して指導者のお話や証を聞いているうちに、今まで伝道に出るには大きくて越えられないと思っていた壁(伝道資金、家族や親戚の反対、仕事など)がほんの数時間のうちに砕けていったのです。目の前が急に明るくなった気がしました。

各地のたより

また、その頃父が病気で医者様からも見放されていたので、私が伝道に出て一生懸命業のために働いたなら、神様が父の上に特別な祝福を与えてくださるかもしれないと思うと、ますます伝道に出たいという気持ちも強くなりました。

父の体のことを考えると急がなければいけないと思いましたが、問題は伝道資金でした。自分の貯金はあまりありませんでしたので、足りない分をだれかに援助してもらわなければなりません。私の家はあまり裕福ではありませんし、ことに父の入院費もありましたので援助を頼むのはむずかしいと思いましたが。しかし家族の援助を通して父や家族に祝福があることを願い、頼んでみようと思ひました。

した。どうか大丈夫だろうという確信があったのです。

家に電話をすると姉が出ましたので伝道について話すとひどく怒り、「あなたは、なんてひどい娘なの。父親が病気で苦しんでいるというのに、その父を見捨てて1年半も伝道に出ようというの。そのうえ資金を援助してくれだなんて、よくそんなことが言えるわね」と言って電話をプツリ切られてしまいました。

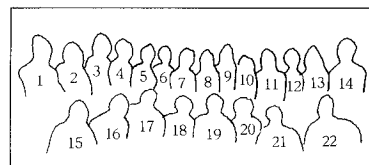
やはり伝道に出ることは簡単ではないと思ひ、あきらめようかとも思ひました。しかし、それでも出たいという強い気持ちがありましたので、今度は直接両親に話そうと思ひ、3日間断食をして会いに行きました。家族を目の前にしてなかなか言い出せず、何時間も心でお祈りしな

がら、必死の思いで伝道の話を持ち出したとき、母と姉の顔色が変わり、父も驚いた様子でした。

母と姉が私を責めるように見つめるので、(ああだめだ)と下を向いていると父が「よし、……行って来なさい。お前がそれほど行きたいのなら……。」そして伝道資金は全部父が持つとまで言ってくれました。私は驚きと喜びで涙が止めどもなく流れ、何を言っているかわからずに、ただ頭を下げて「ありがとう」の言葉を繰り返すだけでした。そばにいた母と姉も、本当は病気の自分の側にいてほしいのに娘の願いをかなえてあげようという父の心に感動して泣き出し、父を囲んで親子4人で家族としての愛と喜びをかみしめながら涙しました。このときほ



10月に召された JMTC第77期生 22名の名簿



S: スターキ部, W: ワード部
B: 支部, M: 伝道部

| 〈名前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 | 〈名前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 |
|------------|------------------|--------|------------|-----------|--------|
| 1. 中島 政樹 | 名古屋M/金沢B | 東京北伝道部 | 12. 饒平 名康子 | 沖繩那覇S/那覇W | 札幌伝道部 |
| 2. 滝沢 政子 | 東京北M/長野B | 大阪伝道部 | 13. 川上 寛子 | 東京南S/千束W | 札幌伝道部 |
| 3. 出野 紀子 | 高松S/徳島W | 東京北伝道部 | 14. 飯島 学 | 東京北S/川越W | 神戸伝道部 |
| 4. 石川 智子 | 岡山M/山口B | 札幌伝道部 | 15. 近藤 篤 | 名古屋S/春日井B | 東京北伝道部 |
| 5. 丸山 貴子 | 名古屋M/金沢B | 仙台伝道部 | 16. 仲林 正人 | 東京S/吉祥寺W | 名古屋伝道部 |
| 6. 當間 さよ子 | 沖繩那覇S/那覇W | 東京南伝道部 | 17. 平野 良一 | 東京S/吉祥寺W | 名古屋伝道部 |
| 7. 末森 真美 | 広島S/光W | 東京南伝道部 | 18. 武田 修 | 東京S/吉祥寺W | 札幌伝道部 |
| 8. 津端 真由美 | リウカバカレッジ 徳S/第10W | 福岡伝道部 | 19. 古我 知邦安 | 沖繩那覇S/名護B | 札幌伝道部 |
| 9. 藤井 益美 | 横浜S/小杉B | 福岡伝道部 | 20. 長岡 貢 | 町田S/藤沢W | 福岡伝道部 |
| 10. 石川 美以子 | 東京S/三鷹W | 神戸伝道部 | 21. 坂本 修 | 東京南S/千束W | 福岡伝道部 |
| 11. 宮川 千悦子 | 札幌西S/新琴似W | 神戸伝道部 | 22. 石田 泰清 | 福岡M/谷山B | 仙台伝道部 |

各地のたより

ど家族に感謝し、神様に感謝したことはありません。

さっそく必要な書類をそろえて伝道の面接を待っていたある日、父の容体が悪化し、私は母と一緒に病院で付き添わなければならなくなりました。「伝道に出ることは神様のみこころにかなっているはずなのに、どうして……」と思いましたが、それからの毎日はそんなことを考える間もなく、親子3人、父の病気との戦いで、次第に伝道に出ることもあきらめつつありました。伝道どころか毎日聖典を読む時間もなければ、日曜日には教会にも行けないので心に焦りを感じて落ち込んでいたとき、ホームティーチャーの訪問を受け、「今は福音を実践するときですよ」とアドバイスしてくださいました。

それから、生活の中で福音を実践するように努めるようになり、つらいことは喜びに変わり、私の心も変わっていききました。両親や周りの人々との関係もとてもよくなって、神様は父や私たち家族にあふれるほどの祝福をくださいました。2カ月ほどして父は亡くなりましたが、

その間、お医者様が不思議に思うほど父は安らかで、父の心は日に日に清められ、目を閉じたときに復活したイエス様が見えたと言いました。病室には笑い声や愛があふれ、そこは小さな天国のようでした。

父が亡くなって、一度伝道に出ることをあきらめた私でしたが、家族の反対を受けながらも再び決心しました。そして今、まだまだ未熟ながらも宣教師として、このすばらしい伝道の業についていますことを心から感謝しています。神様は偉大です。その愛は計り知れず、私たちの想像の及ばない方法で私たち一人一人を愛し、導いてくださっています。神様は確かに生きていらっしゃる。

この福音の種を私にくださった宣教師に感謝しています。そして、私をいつも心配し、愛してくれる家族と、励まし、支えてくださるホームティーチャー、監督、ステークス部長、伝道部長、愛する友人たちに心から感謝しています。(あべ・みゆき 1961年生まれ)

大阪ステークス部阿部野ワード部・大阪ワード部教会堂の増築なる

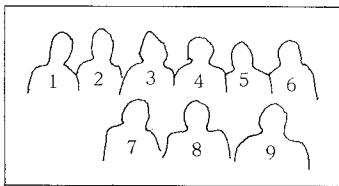
大阪の地で最も古い歴史とステークス部センター的な働きとして、ステークス部大会やダンスパーティー、結婚披露宴などの多くの行事を行なっている私たちの教会堂は、俗に100万人のターミナルと呼ばれる南大阪の交通の中心地、天王寺より徒歩で約15分の場所にあります。

最初に阿倍野支部として建築されたのは、今から20年も前のことです。

当時、兄弟たちはブロックを一つ一つ積み上げ、姉妹たちは兄弟や建築宣教師のために食事を作るなど、金銭的にも多くの犠牲と奉仕がありました。またこの堅固な教会堂を見るとき、本当に信仰をもって建築されたということが強く感じられます。

今、この教会堂は、阿倍野ワード部と大阪ワード部のふたつのユニットで使用

11月に召された JMTC第78期生 9名の名簿



S:ステークス部, W:ワード部
B:支部, M:伝道部



| 〈名前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 | 〈名前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 |
|----------|------------|--------|----------|-----------|-------|
| 1. 坂上厚子 | 札幌M/釧路B | 東京南伝道部 | 6. 宮地美佐子 | 名古屋S/名東北W | 岡山伝道部 |
| 2. 小野寺尚美 | 仙台S/上杉W | 東京南伝道部 | 7. 佐久間豊三 | 高崎S/小山B | 仙台伝道部 |
| 3. 前川真喜子 | 仙台M/盛岡B | 神戸伝道部 | 8. 安居 愉 | 町田S/厚木B | 福岡伝道部 |
| 4. 野村喜代美 | 沖縄那覇S/普天間W | 福岡伝道部 | 9. 大波多正伸 | 東京北S/川越W | 岡山伝道部 |
| 5. 川村優子 | 東京北S/浦和W | 岡山伝道部 | | | |

各地のたより

しております。

増築以前は部屋数も少なく、集会が重なってしまったときなど、部屋の調整が大変でした。しかし、今回の増築によって8部屋増え、駐車場も18台から27台駐車できるようになり、そのほか礼拝堂やホール、台所、バプテスマフロント、同じ敷地内にあるステーキ部の事務室などが改修されました。

また、新しく増築された所に教育部の事務室が転居したことにより、以前にも増してインスティテュートのプログラムの充実が見られるようになりました。

献堂式は昨年7月7日に行なわれ、阿倍野支部だった頃に集っておられた地区代表の鈴木正三長老も参加され、お話をいただきました。

献堂式では、阿倍野支部建築当時の写真や今回増築した箇所の写真をスライドで写し、昔建築作業に携わられた兄弟姉妹も証をされました。そして最後のステーキ部長の献堂の祈りが終わったとき、この教会堂は本当にすばらしく生まれ変わっていました。

神殿が「主の宮居」と言われるごとく、私たちの教会堂も「主の宮居」と言われるよう、努力していきたいと思います。大阪にお寄りの際は、是非いらしてください。(大阪ワード部幹部書記・森下浩司)



阿部野ワード部監督
岩永 正教



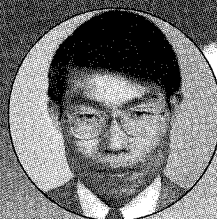
大阪ワード部監督
大下 修



●教会所在地：〒558 大阪市阿倍野区阪南町1-11-8
TEL 06 (623) 6820

各地のたより

敷地面積：982.73㎡
建築面積：241.83㎡
延床面積：467.58㎡



杉浦信明監督

●教会所在地：〒440 愛知県豊橋市東新町2-1
TEL 0532 (53) 9938

一トぶきの倉庫でした。床を張り、壁を作り、ベニヤを張り、ドアを付け、兄弟姉妹の犠牲と奉仕によって倉庫が立派な礼拝堂に生まれ変わりました。この改装工事中、兄弟姉妹が受けた奇跡と特別な祝福は、次の引っ越しの準備段階でした。

菰口町時代に主の導きによって見つけられた東新町の元製糸工場跡地には、3階建ての大きな土蔵と2階建ての民家が建っていました。土地購入の申請が正式に許可され、半年間かかってこの土蔵が立派な教会堂に改造されました。その間、別棟の2階建ての家は、毎朝会員の奉仕によって少しずつ解体され、1979年12月に日本でもユニークなお蔵の教会堂が完成したのです。壁土を落とし、瓦を一枚一枚はがし、残材を燃やし、汗と埃にまみれた奉仕会を通して、さらに兄弟姉妹の信仰と一致が強められたのです。

翌年、1980年2月には支部からワード部になるという大きな祝福をいただきました。宣教師の熱心な伝道と会員の働きにより、出席人数も増え、1985年1月、鉄入れ式が行なわれて、ついにすばらしい正規の教会堂が完成したのです。このあふれる祝福は会員すべてにとって、十分の一の祝福の証です。

献堂された美しい教会堂で福音を学べることは本当に大きな喜びです。これまで豊橋の地で伝道してくださった、数えきれない宣教師の皆さんに心から感謝を申しあげたいと思います。豊橋の地で成長し、各地で主のみ業に熱心に励んでおられる兄弟姉妹の残された汗と犠牲と証に心から感謝申しあげます。

豊橋ワード部伝統の「伝道に対する火」を絶やすことなく、常に主に心に向け、この教会堂をフルに活用し、これからも兄弟姉妹と共に主のみ業を進めていきたいと思っております。この教会が確かに主ご自身の導かれる真の教会であることを心から証いたします。(豊橋ワード部監督・杉浦信明)



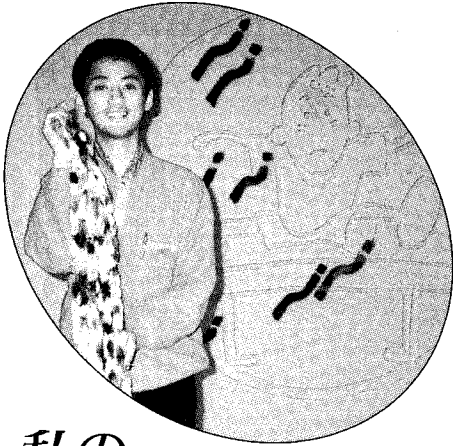
完成した名古屋ステーキ部豊橋ワード部教会堂

——14年間の歩み——

愛 知県の最も東に位置する豊橋の地に、初めて宣教師が送られたのは、大阪万博の翌年1971年3月のことでした。それから14年後の1985年8月4日、土田勝ステーキ部長の祈りによって、豊橋ワード部の教会堂が主に捧げられたのです。

前畑町で最初の集会が開かれてから、この14年間に豊橋ワード部の教会は、船町、菰口町、そして現在教会の建っている東新町へと4回の引っ越しをしました。1978年7月、手狭になった船町の教会から引っ越した菰口町の教会は、鉄骨スレ

各地のたより



私の ハードルを 乗り越えて

福岡ステーキ部福岡ワード部
一丸 俊雄

☆その千羽鶴を受けとったとき、私はたくさんの人への感謝とともに、主に対する感謝の気持ちで胸がいっぱいでした。

昨年の8月、鹿児島県の長島で行なわれた、福岡ステーキ部と福岡伝道部合同の独身成人大会最終日の朝のことです。

今回の大会は「今こそこのハードルを」をテーマに270余名の独身成人が集まり、自分の目標に向かって進むときの困難や障害をいかにして乗り越えていくかについて考える場となりました。

私は4日間にわたって行なわれるその大会運営のための責任を受けていました。

ほかのスタッフと共に、九州の地の独身成人に少しでも多くの祝福がもたらされるようにと、たくさんの時間をかけ、かなり前から準備を進めてきました。

その一方で、私は大学卒業後に就職するため、ひとつの資格試験を受けようと決心していました。祈りを通し、私にはその仕事しかないと確信していましたので、私にとって困難であっても頑張ってみようと心に決めていました。

しかしながら、独身成人大会の責任のために、私はその資格試験を受けるに必要な準備の時間が思うように取れませんでした。同じ大学の学生が夜遅くまで勉強をして着実に準備を進めている話を聞くにつけ、不安はつのる一方でした。

そこで私はステーキ部長会に自分の状況を伝え、なんとかその責任から解任されないものだろうかと話しました。私たちが受けている召しは、人が与えるものではなく主が与える召しであることをよくわかっていながら、自分から解任を望んだことを今は後悔しています。

やはりその責任は解任になりませんでした。それどころか、さらに新たな召しを与えられ、そのためそれまで以上にたくさんの時間を使わなければならなくなりました。そのときにはもう、試験のことは犠牲にしても主に対して忠実に働こうと決意していました。

私はその話をしたつもりはなかったのですが、どこでどう聞きつけたのか、独身成人大会の最終日の朝、ひとりの兄弟が「大会に来た兄弟、姉妹みんなで折りました……」と言って千羽鶴を渡してくれました。中には「合格祈願」「いっぱい

愛ありがとう」などのメッセージ（中には気の早い人もいて「合格おめでとう」と書いたもの）が入っていました。

その千羽鶴を受け取ったとき、私はたくさんの人への感謝とともに、主に対する感謝の気持ちで胸がいっぱいでした。スタッフとしての責任を途中で投げ出さなくてよかったと思っています。またそのように指示してくださったステーキ部長会に感謝しています。そして、そのときに、私は十分に主の恵みを受け、祝福をすでに受けたと感じていました。

ところが、主が私のために用意されていた祝福はそれだけではありませんでした。先日、その資格試験の発表があり、同じ大学の学生のほとんどが悲しい知らせを受けたにもかかわらず、私のところには合格通知が届いていました。本当に不思議でした。(同じように大学の友人からも不思議がられました……)

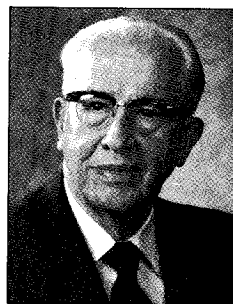
これらのことは私にとってひとつのハードルでした。大会に参加したみんなが、それぞれ自分のハードルを乗り越えていこうと決意し、乗り越えていったように、私もスタッフとして働きながら自分のハードルを越えることができたのです。

いかに困難なハードルが目前にあったとしても、そこから逃げださず、また主に頼りながら進むとき、必ずそれを越えることができることを証します。また、そのように困難や試練にぶつかりながらもそれに耐えてがんばろうとする人を、主がどれほど愛しておられるか、身にしみて感じています。(いちまる・としお 1961年生まれ、福岡ワード部長老定員会会長)

編集室から

- ▶「聖徒の道」の原稿を常時募集しています。特に、全国で行なわれている各種の行事や催し物についてのレポートが少なく、記事がどうしても東京地区中心になりがちです。各地のたよりには北は稚内から南は沖縄までの幅広い話題を採りあげたく思いますので、広報ディレクターあるいは各種催し物を担当する高等評議員/地方部評議員の方はレポーターを手配して下さるようお願いいたします。
- ▶また、せっかく送られてきた記事が、締切に間に合わないために時期を逸して掲載できないこともありますのでご注意ください。
- ▶4月号掲載分の締切は2月10日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電話番号)を記入してください。
- ▶あて先: 〒106東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 ☎03(444)5264

渋谷ブックセンターから



エズラ・タフト・ ベンソン大管長の 写真

ストックナンバー:
VVOP3248JA
サイズ: 280×215ミリ

新発売 1枚50円

大会説教と教会教科課程

以下のリストは両親や教師、個人の福音の学習に役立つために作成されたものである。1985年10月の総大会説教が、青少年および成人用教会教科課程の補足資料として利用できるようにになっている。

福音の教義クラス 1986年

| 課 | 教会幹部 |
|----|---|
| 3 | エズラ・タフト・ベンソン (土曜午前), ダリン・H・オークス, ニール・A・マックスウェル |
| 5 | ジェームズ・E・ファウスト, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス |
| 6 | L・トム・ベリール, ラッセル・M・ネルソン, ジョージ・P・リー |
| 8 | ボイド・K・バックナー, カロス・E・エイシー |
| 9 | ゴードン・B・ヒンクレイ (日曜午後), セオドア・M・バートン |
| 10 | トーマス・S・モンソン |
| 11 | ボイド・K・バックナー, マービン・J・アシュトン, デレク・A・カスバート |
| 13 | ジェームズ・E・ファウスト |
| 14 | エズラ・タフト・ベンソン (神権部会), セオドア・M・バートン, レックス・D・ピネガー |
| 15 | ジェームズ・E・ファウスト |
| 16 | ゴードン・B・ヒンクレイ (日曜午後), ラッセル・M・ネルソン |
| 17 | マービン・J・アシュトン |
| 18 | ゴードン・B・ヒンクレイ (日曜午前), ゴードン・B・ヒンクレイ (日曜午後) |
| 21 | ゴードン・B・ヒンクレイ (日曜午後) |
| 23 | ディーン・L・ラーセン, ロバート・L・バックマン, セオドア・M・バートン, ローレン・C・ダン |
| 24 | ハートマン・レクター・ジュニア, ロバート・E・ウエルズ |
| 25 | ボイド・K・バックナー |
| 26 | マービン・J・アシュトン |

日曜学校 17コース

| 課 | 教会幹部 |
|----|--|
| 2 | ニール・A・マックスウェル |
| 4 | エズラ・タフト・ベンソン (土曜午前), ダリン・H・オークス |
| 6 | L・トム・ベリール |
| 8 | セオドア・M・バートン, ハートマン・レクター・ジュニア, ロバート・D・ヘイルズ |
| 10 | トーマス・S・モンソン, ディーン・L・ラーセン |
| 11 | ゴードン・B・ヒンクレイ (日曜午後) |
| 14 | ディーン・L・ラーセン |

- 15 ダリン・H・オークス
- 16 ラッセル・M・ネルソン
- 21 ローレン・C・ダン
- 28 ゴードン・B・ヒンクレイ (日曜午前)
- 33 レックス・D・ピネガー
- 39 ジョージ・P・リー
- 41 ロバート・L・バックマン
- 43 マービン・J・アシュトン

日曜学校 16コース

| 課 | 教会幹部 |
|----|---|
| 1 | ニール・A・マックスウェル |
| 9 | ハワード・W・ハンター |
| 11 | L・トム・ベリール |
| 13 | ボイド・K・バックナー, ジェームズ・E・ファウスト |
| 17 | セオドア・M・バートン, ハートマン・レクター・ジュニア |
| 18 | エズラ・タフト・ベンソン (土曜午前) |
| 22 | ゴードン・B・ヒンクレイ (日曜午後), エズラ・タフト・ベンソン (神権部会) |
| 23 | ラッセル・M・ネルソン |
| 26 | レックス・D・ピネガー |
| 32 | トーマス・S・モンソン, ローレン・C・ダン |
| 34 | ロバート・L・バックマン |
| 38 | ジョージ・P・リー |
| 40 | ゴードン・B・ヒンクレイ (日曜午前) |

日曜学校 14コース

| 課 | 教会幹部 |
|----|---------------------|
| 4 | ボイド・K・バックナー |
| 5 | レックス・C・リーブ・シニア |
| 31 | ロバート・L・バックマン |
| 32 | ロバート・E・ウエルズ |
| 34 | ゴードン・B・ヒンクレイ (日曜午後) |
| 35 | ジョージ・P・リー |
| 37 | ローレン・C・ダン |

明るい少女コースB/開拓者コースB/日曜学校11コース

| 課 | 教会幹部 |
|----|--|
| 2 | アーデス・G・カップ (女性の大会) |
| 3 | レックス・C・リーブ・シニア |
| 14 | ドゥワン・J・ヤング (女性の大会) |
| 16 | ジョージ・P・リー |
| 17 | マービン・J・アシュトン, ジェームズ・E・ファウスト, バーバラ・W・ウインダー (女性の大会) |
| 20 | ロバート・L・バックマン, ローレン・C・ダン |
| 21 | ロバート・E・ウエルズ, デレク・A・カ |

- スバート
- 26 エズラ・タフト・ベンソン (土曜午前),
セオドア・M・バートン

扶助協会 1986

●訪問教師メッセージ

| 課 | 教会幹部 |
|----|---------------------|
| 3 | セオドア・M・バートン |
| 6 | ラッセル・M・ネルソン |
| 10 | エズラ・タフト・ベンソン (土曜午後) |
| 11 | マービン・J・アシュトン |

●霊の生活

| | |
|----|--------------------------|
| 1 | ゴードン・B・ヒンクレイ (日曜午後) |
| 3 | ラッセル・M・ネルソン, セオドア・M・バートン |
| 4 | ラッセル・M・ネルソン |
| 5 | ラッセル・M・ネルソン |
| 6 | ラッセル・M・ネルソン |
| 8 | ラッセル・M・ネルソン |
| 10 | エズラ・タフト・ベンソン (土曜午後) |
| 11 | マービン・J・アシュトン |

●母親教育

- 6 ロバート・D・ヘイルズ

●社会

| | |
|---|---------------------|
| 4 | ラッセル・M・ネルソン |
| 5 | ロバート・L・バックマン |
| 9 | エズラ・タフト・ベンソン (土曜午前) |

●慈善奉仕

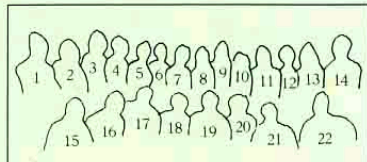
- 2 ロバート・L・バックマン
- 4 ローレン・C・ダン

メルケゼテク神権個人学習ガイド 1986

| 課 | 教会幹部 |
|----|-------------------------------------|
| 1 | L・トム・ベリール |
| 5 | エズラ・タフト・ベンソン (土曜午前) |
| 7 | ロバート・D・ヘイルズ |
| 8 | ゴードン・B・ヒンクレイ (日曜午前), トーマス・S・モンソン |
| 16 | カロス・E・エイシー, レックス・D・ピネガー |
| 18 | ハワード・W・ハンター, ラッセル・M・ネルソン |
| 23 | セオドア・M・バートン |
| 26 | ディーン・L・ラーセン, レックス・C・リーブ・シニア |
| 30 | ロバート・E・ウエルズ |
| 32 | ハートマン・レクター・ジュニア |
| 35 | エズラ・タフト・ベンソン (神権部会) |



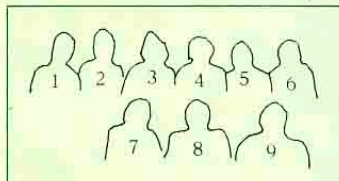
10月に召された JMTC第77期生 22名の名簿



S : ステーキ部, W : ワード部
B : 支部, M : 伝道部

| 〈名前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 | 〈名前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 |
|-----------|------------------|--------|-----------|-----------|--------|
| 1. 中島 政樹 | 名古屋M/金沢B | 東京北伝道部 | 12. 巖平名康子 | 沖縄那覇S/那覇W | 札幌伝道部 |
| 2. 滝沢 政子 | 東京北M/長野B | 大阪伝道部 | 13. 川上 寛子 | 東京南S/千束W | 札幌伝道部 |
| 3. 出野 紀子 | 高松S/徳島W | 東京北伝道部 | 14. 飯島 学 | 東京北S/川越W | 神戸伝道部 |
| 4. 石川 智子 | 岡山M/山口B | 札幌伝道部 | 15. 近藤 篤 | 名古屋S/春日井B | 東京北伝道部 |
| 5. 丸山 貴子 | 名古屋M/金沢B | 仙台伝道部 | 16. 仲林 正人 | 東京S/吉祥寺W | 名古屋伝道部 |
| 6. 堂間 さよ子 | 沖縄那覇S/那覇W | 東京南伝道部 | 17. 平野 良一 | 東京S/吉祥寺W | 名古屋伝道部 |
| 7. 末森 真美 | 広島S/光W | 東京南伝道部 | 18. 武田 修 | 東京S/吉祥寺W | 札幌伝道部 |
| 8. 津端 真由美 | リッパバークカレッジ深谷S/新W | 福岡伝道部 | 19. 古我知邦安 | 沖縄那覇S/名護B | 札幌伝道部 |
| 9. 藤井 益美 | 横浜S/小杉B | 福岡伝道部 | 20. 長岡 貢 | 町田S/藤沢W | 福岡伝道部 |
| 10. 石川美以子 | 東京S/三鷹W | 神戸伝道部 | 21. 坂本 修 | 東京南S/千束W | 福岡伝道部 |
| 11. 宮川千悦子 | 札幌西S/新琴似W | 神戸伝道部 | 22. 石田 泰清 | 福岡M/谷山B | 仙台伝道部 |

11月に召された JMTC第78期生 9名の名簿



S: スターキ部, W: ワード部
B: 支部, M: 伝道部



| 〈名前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 |
|----------|------------|--------|
| 1. 坂上厚子 | 札幌M/釧路B | 東京南伝道部 |
| 2. 小野寺尚美 | 仙台S/上杉W | 東京南伝道部 |
| 3. 前川真喜子 | 仙台M/盛岡B | 神戸伝道部 |
| 4. 野村喜代美 | 沖繩那覇S/普天間W | 福岡伝道部 |
| 5. 川村優子 | 東京北S/浦和W | 岡山伝道部 |

| 〈名前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 |
|----------|-----------|-------|
| 6. 宮地美佐子 | 名古屋S/名東北W | 岡山伝道部 |
| 7. 佐久間豊三 | 高崎S/小山B | 仙台伝道部 |
| 8. 安居愉 | 町田S/厚木B | 福岡伝道部 |
| 9. 大波多正伸 | 東京北S/川越W | 岡山伝道部 |

夢による警告

デビッド・ハーディ

19 79年から80年にかけての冬は、私たちの地方では例年に比べて厳しいものでした。降り積もった雪で友人の山小屋がつぶれ、屋根全体からコンクリートの土台に至るまで、すべて建て直さなければならませんでした。その仕事を、私が引き受けることになりました。

その山小屋は、峡谷の中の奥まった所にあり、川の岸に沿って生えたうっそうとした松林の間に立っていました。あたりの景観と静寂は、この世のものとは思えないほどのものです。こうした仕事を受けた場合、普通はだれか助けてくれる業者を見つけて一緒にやるのですが、今回は自分ひとりでやってみようと思えました。その場所に行くたびに、すばらしい情景と清澄な雰囲気せいじょうに接して感動を覚えていたからです。4月末になり雪が溶けて山小屋まで行けるようになると、すぐに私は兄のラスティに手伝ってもらい、建物の取り壊しにかかりました。

陽気がだんだんと暖くなるにつれて、私は毎日、息子のケニーを連れて行くようになりました。ケニーはその当時2歳半で、私と一緒に仕事について行くのをとても楽しみにしていました。ケニーは目に入るものは何でも探検して、一日中ひとりで遊んでいました。初めて見る自然の美しさ、特にリスや野鳥に夢中になっていました。また、雪解けで流れの速くなった川に石ころや棒きれを投げては何時間でも遊んでいました。そして時にはよく松の木陰で体を丸めて昼寝をしたりしていました。

来る日も来る日もこうして過ぎました。ケニーは遊んでいる間にしょっちゅう転んだりして、かすり傷を作っていましたが、私は息子のこうした体験も成長につなが

ることがわかったので、めったに手を貸してやることはしませんでした。こうしてケニーは、新しい環境に慣れるに従って、次第に自信を持ち始めました。それでも私は、息子がまだ小さくて、また特に雪解けで川が深く、流れも速くなってきていたので、目を離さないように心がけていました。ケニーは意外なくらいの常識を示し、流れからはある程度距離を置いていたのですが、日々自信がつくにつれて流れに少しずつ近づいて行きました。

ケニーを仕事に連れて行くようになって4、5週間たったある晩、私はひどい夢を見ました。ケニーが激流に落ちておぼれてしまう夢です。目が覚めるとじっとりと冷や汗をかいていました。非常に真に迫った恐ろしい夢だったので、起きても震えが止まりませんでした。

その夢の後はどうとう寝つけませんでした。私は自分を落ち着けて、心に波のように押し寄せて来る恐怖が一体何なのか一生懸命考えました。そして、この夢は無視してはならない、ひとつの警告であるという結論に達したのです。しかし

同時に、幼いケニーに何と行って、もう二度と山小屋には一緒に連れて行ってあげられないことを話したらよいのかわかりませんでした。ケニーが私と一緒に山に行くのをどれだけ楽しみにしているかを思うと、心を傷つけはしまいかと気がかりでなりませんでした。

翌朝、私は妻のジョージアに自分が見た夢について説明し、今の自分の気持ちを話しました。妻もケニーを連れて行かないことには賛成しましたが、がっかりしたケニーをどうやってなだめるかを心配していました。

ケニーはその朝早く起きてきて、いつもどおり服を着替え始めました。そして私たちの寝室に来て、私の膝の上に座りました。くつ下と靴を履かせながら、私はまだ話を切り出せないでいました。

すると、ふいにケニーが言いました。「お父さん、ぼくきょう一緒に行けないよ。」

「どうしてだい。」私は驚いて尋ねました。

「だって川でおぼれちゃうもの。」ケニーはそう答えたのです。

私たちは喜びで涙があふれてきて止まりませんでした。ケニーは昨晚、私と同じ警告を受けていたのです。私たちは大きな平安に満たされました。天父が私たちの息子をお守りくださり、生涯の召しを全うできるように聖霊の導きを与えてくださったからです。



若い女性のための 「福音の7つの標準」



このたび、教会の若い女性が正しい生活を送るための指針となる「福音の7つの標準」が、世界中の若い女性に向けて発表されました。

これは、1985年11月10日に、ソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアにあるタバナクルで開かれた特別ファイヤサイドの席上发表されたもので、若い女性が福音に従った生活をし、天の御父に仕えるうえで助けとなるものです。

中央若い女性会長のアーデス・G・カップ姉妹は、この7つの標準を生活に取り入れることが若い女性にとって大切であることを強調し、こう語っています。「この標準に従って生活すると、自分が一体だれなのかということについていつも考えるようになりますし、末日聖徒イエス・キリスト教会の若い女性であることの価値を心に留めるようになります。」

また教会の世界中の若い女性に向けて、十二使徒定員会会員のラッセル・M・ネルソン長老はこう語りました。「十代という時期は、教会のために、また主の王国のために自分は何ができるかを考える時期です。若い女性の皆さんは、『真理の処女』にならなければなりません。『真理の処女』はまず第一に自分が神の娘であることを学びます。つまり、自分にはキリストのような特質があって、努力すれば神と似た者になれることを理解するのです。また若い女性は若い男性と共に特別な生得権を持っていて、共に協力することによって神権の最高の階級、すなわち新しくかつ永遠の結婚誓約に入ることができるのです。」

またネルソン長老はこう呼びかけています。「若い女性の皆さん、真理に根ざした生活をしてください。そしてみたまの導きによってほかの人々を祝福することができるように備えをしまし

よう。福音を教え、祝福について証ができるようにしましょう。自分自身を高め、豊かにし、家庭にあっては信仰の中心になりましょう。皆さんはほかの人々にいろいろな立場で祝福を与えることができます。将来は母親として、また家族の一員として、あるいは学校のクラスのリーダーとして、さらには真理の実践の場である世の中で、そして暖炉やベビーベッドのかたわらで、祝福を与えるのです。」

模範をもって導き、教えるという概念は、次のカップ姉妹の言葉と呼応するものです。「守り手としてほかの人々を導くのはだれでしょうか。皆さんは内なる力を持っています。皆さんの力でほかの人を救えるのです。勇気を出して立ちあがりましょう。この世の悪の声に対抗できるのはだれでしょうか。低俗な娯楽や広告に声をあげて対抗する義なる若い女性はだれでしょう。霊と肉体を清く保つために、アルコールや薬物などの有害な物をとらない運動に加わるのはだれでしょうか。」

私は約束します。もし皆さんが守り手としてほかの人々を義に、つまりイエス・キリストの福音に導くならば、主は皆さんに力を与えてくださるでしょう。皆さんは天の御父と御子の愛をさらに強く実感できるに違いありません。正しいことをなすための一つ一つのステップが皆さんを強くし、さらに大きな自信を生み出すことでしょう。そして悪魔が、邪悪な事柄を好ましく、人受けがよく、また心地よいものに見せかけていることをすぐに見破ることができるようになるのです。

皆さんはみたまの導きを受け、『現在の事をありのまま』（モルモン経ヤコブ4：13）に見ます。また皆さんは正しいことをしようと決意していますから、世の人とは、はっきりと違ってきます。彼らは皆さんに魅力を感じるようになるでしょう。生きた証である皆さんは福音の光を輝かせます。そして皆さんを通して福音を受け入れた人は、皆さんの永遠の友となるでしょう。

私と共に、教会の若い女性の一大運動に参加できるよう備えをしましょう。もう一度決意を新たにして福音に従う運動です。この運動に参加することによって皆さんは、歴史を作り予言を成就する業に加わることになるのです。」

このカップ姉妹ならびにネルソン長老の説教は、若い女性の標準を紹介した小冊子に収められて、間もなく皆さんのお手元に届けられる予定です。





若い女性の標準

末日聖徒イエス・キリスト教会の若い女性であり、天の御父の娘である私たちは、ここに述べられた標準を受け入れて守ることにより、神聖な誓約を交わし、神殿の儀式を受け、昇栄の祝福にあずかることができます。

1. 信仰

私は天の御父の娘です。御父は私を愛してくださいます。私は救い主イエス・キリストを中心とした御父の永遠の計画を信じます。

2. 神から受け継いだ特質

私は神から受け継いだ特質を育てていくように努力します。

3. 個人の価値

私の価値の貴さは計り知れません。神から授かった使命を全うできるように努力します。

4. 知識

学び成長する機会を見つけるようにいつも心がけま

す。

5. 選択と責任

私には善悪を自由に選択することが許されていますが、選択の結果については責任をとらなければならないことを知っています。

6. よき行ない

皆の先頭に立って義なる奉仕を行ない、王国を建設します。

7. 誠実

正しいとわかっていることは勇気をもって実行します。

我が予言者に祝福あれ

作詩：バーナード・スノー (1822-1894)

作曲：ハリー・A・ディーン (1892-)

©1985 LDS

祈りの気持ちで ♩=76-96

1. わ が よ げん しゃに しゅ く ふ く あ れ
 2. よ げん しゃ は いう か み の く に は
 3. せ い と は み な か み と み こ を

ま も り た ま え か れ の こ と ば ま も り
 ひ ろ が る こ こ ろ あ つ く し ん り
 み な ら い て も こ こ ろ も ひ と つ

ゆ け ば た だ し ら い み ち え ら べ る
 も と め た ち か ら い あ わ せ す す も う
 と な り と わ に あ か た く す す ほ う

教義と聖約107：22
 III ニーファイ19：23

- 我が予言者に
 祝福あれ
- 一、我が予言者に 祝福あれ
 守りたまえ 彼の言葉
 守り行けば 正しい道
 選べる
 - 二、予言者は言つ 神の国は
 広がる 心熱く
 真理求め 力合わせ
 進もつ
 - 三、聖徒は皆 神とみ子を
 見習い 手も心も
 ひこととなり 永遠に固く
 結ばつ

新讃美歌集の出版に寄せて

シオンの讃美歌

教会が組織されてまだ数カ月しかたっていない1830年7月、主は予言者の妻エマ・スミスに、最初の末日聖徒の讃美歌集を編纂するよう命じられました。これだけをとってみても、教会における讃美歌の重要性がわかりますが、主はさらにその重要性を強調してこう言われました。「すべて心の歌は、われらの喜びなり。然り、義しき者の歌はわれらに対する祈りなり。彼らの頭に祝福を与えてその応えとなさん。」(教義と聖約25:12)

ウィリヤム・W・フェルプスという有能な助手を得て、エマは讃美歌集を編纂し、1835年8月、オハイオ州カートランドで出版したのです。そのはしがきにはこう記されています。「主に栄光を帰するため選曲された以下の歌が、さらに多くの歌が作られ、多様なシオンの歌に恵まれる日まで、あらゆる目的にかなうよう切に望むものである。」

初めて末日聖徒の讃美歌集が出版されて以来、150年を経た今日、数々の「多様なシオンの歌」が書かれ、聖徒たちに音楽文学として親しまれてきています。その多くは長年にわたり大切に歌い継がれてきたもので、あらゆる国籍の聖徒たちによって愛され、歌われています。

「歴史的に見ても、親しまれている讃美歌は、素人の作によるものが多いようです。彼らはだれにでもわかる日常の経験を歌にしているのです。」中央教会音楽委員会の委員長であるマイケル・F・ムーディー兄弟はそう語っています。

主の生ける教会においては、啓示は途絶えることがありません。ですから、その啓示の所産である証は、代々人々の口を通して語られていきます。そしてどの世代も状況こそ違え、福音の原則にそって生活していくことの大切さに変わりありません。そしてどの世代にも言えることは、自分の証や霊的発見を、詩や音楽

に託して表現しようとする人がいるということです。

「讃美歌は本来人の心に作用するものですから、人々の必要としているものをすぐに満たしてくれるはずです。しかしそれらの必要も、年々変わってきているようです。それぞれの世代の人々の心に通じるものを良い讃美歌とすれば、偉大な讃美歌とは、世代を超えて存続するものと言うことができます。」ムーディー兄弟はそう語っています。

ここ数年間に、6千曲にもおよぶ讃美歌が会員の手によって書かれ、提出されてきました。ムーディー兄弟はこう続けています。「提出された讃美歌は、福音に対する深い愛がにじみ出たものばかりです。それらの讃美歌の陰には、靈感を受けて作曲した人々の存在が感じられます。」

提出された新しい讃美歌のうち、何曲かが英語の最新版に加えられることになりました。特に興味深いのは、作詞が教会幹部の手による讃美歌も含まれているということです。大管長会のゴードン・B・ヒンクレイ副管長も、『贖いの主は生きたもう』(仮題)という讃美歌の作詞を手がけています。これには、亡くなった七十人第一定員会会長のG・ホームー・グラム長老が曲をつけています。また先日亡くなった十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老も『我、キリストを信ず』(仮題)の詞を書いています。これらはいずれも、本年中に「聖徒の道」に掲載されることになっています。

また教会の集会には大人と一緒に子供たちも出席することから、今度の新しい讃美歌には、特に子供向けに書かれた歌(『わたしは神の子』など)も加えられます。音楽委員会のマービン・ガードナー兄弟はこう語っています。「小さな子を持つ親として思うことですが、子供たちの

知っている歌や讃美歌を歌うことによって、彼らと一緒に集会に出ているという気持ちを強く持たせることができるんじゃないでしょうか。子供たちの好きな歌というのは、たいてい大人も好きですからね。」

新しい讃美歌集にはドイツ、フィンランド、スウェーデン、オランダ、イギリス、アイルランド地方の旋律がかなり取り入れられており、教会の国際性が反映されています。さらに、いくつかのよく知られている末日聖徒の讃美歌にも手が加えられ、もっと多くの国々で容易に歌えるように工夫がなされています。

新しい讃美歌をこの「聖徒の道」で紹介できることは大きな喜びです。大管長会メッセージの中に、次のような下りがあります。「靈感あふれる音楽は、私たちの教会の集会に欠かせない大切なものです。讃美歌は主のみたまを招き入れ、敬虔さをかもし出してくれます。また会員として的一致を高めさせ、主への賛美の仕方を教えてくれます。」

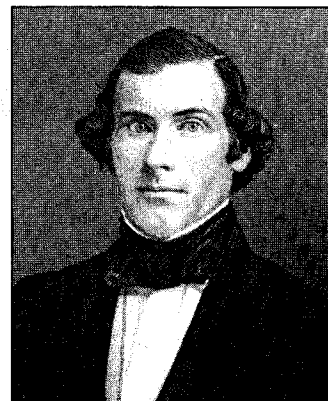
讃美歌を歌うことによって、私たちは大切な教えを学ぶことができます。讃美歌は私たちが悔い改めさせ、良き業へと導いてくれます。また証と信仰を確立させ、疲れる者を癒し、悲しむ者を慰め、私たちが終わりまで耐え忍ぶことができるよう励ましを与えてくれます……兄弟姉妹の皆さん、集会の中に、家庭の中にそして私たち個人の生活の中に主のみたまを招き入れるために、讃美歌を利用しましょう。讃美歌を覚え、よく考え、繰り返し歌いながら、その霊の糧を取り入れましょう。正しき者の歌は天父に対する祈りであり、天父は『(あなた方の)頭に祝福を与えてその応えと』して下さることを忘れないでください。」

注：本誌掲載分の翻訳は、初版を訳された柳田聰子姉妹の協力を得ています。

聖書の歴史を語る

ミルトン・V・バックマン・ジュニア

●これは、ジョセフ・スミスと時代を同じくする人々が彼から直接に聞かされたとする最初の示現に関する記事である。当時の彼らの話には共通点があり、しかもジョセフが記した最初の示現の声明に見られる重要な論旨がすべて含まれている点が興味深い。
(注1) かくしてこの記事は、人類史上比類なき示現を結び固めるものとなっている。



オルソン・プラット

三 シガン州ポンティアク支部が組織された1年後の1834年、ジョセフ・スミスと数人のモルモン経の見証者は、支部の会員たちに自分たちの霊的な経験を力強く証しています。改宗して当時の集會に出席していたエドワード・スティーブンソンは、予言者の証を要約しながら次のように述懐しています。「予言者は天父と御子の訪れを、そして御二方と言葉を交わしたことを力強く証した。これほどの力強さを、いまだかつて経験したことがなかった。」(注2)

ジョセフ・スミスと親交のあった人々や彼と直接話した人々は、同じように予言者がその聖なる経験について語ってくれたことを宣言しています。当時を知る彼らは、ジョセフにみ姿を現わされた御二方の様子と、天父と御子から受けたみ言葉とがジョセフの口を通して明らかにされたこと証しています。

オルソン・プラットの記事

ジョセフ・スミスの時代に、オルソン・プラットほど説教や著述の中でかの歴史的な出来事について幾度となく触れている改宗者はいないでしょう。1830年代の10年間と1839年から40年にかけての冬は、予言者にとってオルソン・プラットは最も忠実な生徒でした。1830年9月にバプテスマを受けたばかりの彼は、19歳の改宗者として320キロ以上もの距離を旅して予言者に会いに行き、その年の12月に長老に聖任されています。ジョセフがオハイオ州カートランドに移ったときには、オルソン・プラットも行動を共にしています。ここでは2カ月近くを予言者の家で過ごし、共に働きました。彼は予言者の塾の最初の生徒として、1833年の大半を予言者が語る回復された信仰の歴史と教義を聞いて過ごしました。1830年代の初頭にはジョセフと共にミズーリ州西部を旅し、1835年には主の十二使徒に召されました。

オルソン・プラットとジョセフ・スミスの接触は1839年から1840年の初めまで続きました。1839年の晩春から初夏にかけては、ジョセフ・スミスの住まいからそう遠くないミシシッピ川沿いで暮らし、その年の後半にはペンシルベニア州フィラデルフィアへ向かう予言者に同行し、短期の伝道をしています。その後スコットランドのエジンバラの地へ行って9カ月近く福音を宣べ伝え、200人以上の聖徒からなる教会を打ち建てるとともに、現在「驚嘆すべき示現」という表題のついたパンフレットを発行しました。(注3) この伝道用のパンフレットは1840年の秋に発行されました。最初の示現が活字となったものとしては初めてのものです。(注4) ニューヨーク州バルマイラの近くで天父と御子にまみえた出来事からモロナイの訪れ、そしてモルモン経の3人の見証者と共にした経験までが、ジョセフ・スミスの初期の示現として記されています。プラット長老はこのパンフレットを1841年に2回増刷し、1842年にも版(アメリカ版第3版と呼ばれている)を重ねています。アメリカ版では神権の回復も含まれています。



ジョセフ・スミスの歴史記録を記した書とパンフレットとを比較すると、予言者の歴史（特に1838年の記述）の中に取り得る主な概念がプラット長老の著作の中にも見られます。プラット長老のパンフレットには直接の引用がなく、ジョセフの1840年以前の著作とも文体がかなり違うため、オルソン・プラットによる歴史は明らかにジョセフの著作そのものよりも、その教えから学んだことに基づいていることがわかります。

1859年に最初の示現について述べた説教の中で、プラット長老は次のように言っています。「彼の口から語られたとおりに簡単な経歴をお伝えしよう。彼がそれを語るのをよく耳にしたものである。」(注5) このパンフレットを出版したことで、結果としてオルソン・プラットはジョセフ・スミスの初期の示現を見事に要約して世に知らしめたばかりでなく、その真実性を証したことになります。

次にあげるのは「驚嘆すべき示現」の

1840年度版からの抜粋です。ジョセフ・スミスの著作の中にある声明とよく似た箇所は下線で記してあります。文末にある括弧の中の年代は、ジョセフ・スミスが最初に資料に記録した年を記したものです。多少の記述の相違はおそらく文章をつけ加えたか、あるいはジョセフは記録しなかったがオルソンには話したことによるものと思われる。(注6)

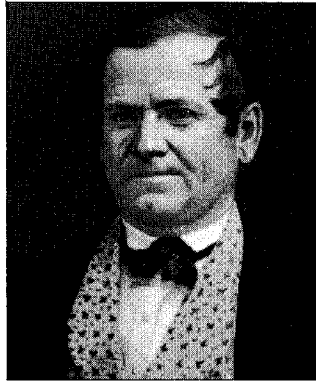
以下に記す重要な発見をしたジョセフ・スミス氏(二代目)は、主の1805年12月23日、バーモント州ウィンゾル郡シャロンの町で生まれた。彼の両親と家族はニューヨーク州パルマイラに移ったが、そのとき彼は10歳であった。(1838年)その後、11年程住んでいた場所に近いマンチェスターの町に移った。生計を立てるために土地を耕すことを職業とし、そのことに1日の大半が消えていた。読み書きの知識を身につけるにはまったく不利な状態だったため、受けた教育とえばほんの一般的な分野を2、3学ぶ程度で

しかなかった。読むことにはあまり苦勞しなかったが、書くことはほとんど無理で、算術の基礎も本当に限られたものしか理解していなかった。(1832)(注7)彼の学識と言えはこれが限度であった。合衆国中の普通学校ではほかの学問もわりあい広く教えられていたが、彼にはまったく関係ないことであった。

最初の示現の背景

14、5歳頃になると、彼は自分の行く末の心構えをしなればと真剣に思い始めていた。それは非常に重要な問題で、魂の救いもその同じ問題を正しく理解することにかかっていると考えていた。

(1832)……彼が知識を求めて各教派を訪れると、どの教派も独自の教義を示して主張するのだった。「これが道です。入って歩いてみませんか。」(1838)……再び彼の心に、一体神は創造主ではなくひとつの教義に過ぎないのかという思いがわき起こり、ひとつの教派だけを自分の



教会として認めることはできなかった。

(1842) そしてそのような教派はひとつの教義(たとえどのようなものであれ)を信じて教える人々の集まりであって、同じような分派を作るのだらうと考えた。それから何百もの教派を生み出している膨大な数の教義を思った。彼は自分の心に次のような大きな問いかけをしてみた。「これらの教派の中でどれかひとつがキリストの教会だとしたら、一体それはどれだろうか。」(1838)……そこで彼は聖書の神聖な記録をひもとき、しかも読んだ箇所を心から信じながら学び始めた。やがて彼の心は次の聖句に引きつけられた。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」(ヤコブ1:5)(1838)……それは暗やみを照らす一条の光にも似ていた。もし神に尋ねたら、数ある教義の中でキリストの教義について、また数ある教会の中でキリストの教会について知識を得るに違いないという可能性、あるいは確かな見込み、むしろ確信が彼の心にあった。そこで彼は父の家から近い森の中へ入り、人目のつかない場所にひざまずいて主を呼び始めた。(1838)すると間もなくやみの力に激しく捕らえられて打ち負かされそうになったが、救いを求めて祈り続け、やがて暗黒が彼の心から去って行った。(1838)こうして魂をふりしぼって神からの答えを熱心に願い求めるうちに、ついに彼は真上の天に栄光に満ちて輝く一筋の光を見た。その光は初めかなり遠くからのように思えた。

彼が祈り続けると、光は次第に彼の方へ降りて来て、近づくにつれて輝きを増していった。やがて光は木々の真上にさしかかり、あたり一面がこの上ない栄光と輝きで照らし出された。光が木々の葉や大きな枝を包み込んで焼き尽くすかと思われるほどだった。しかしそうはならないことがわかると、彼はその輝きに耐えられるようにと心を奮い立たせた。光はゆっくりと降りて来てやがて地の上にとどまり、彼はその真ただ中に包み込まれた。光が彼にふり注がれたとたん、体中の全組織に特別な感覚が走り抜けていった。そしてすぐに、それまで彼を取り巻いていた自然界のすべてから、心が解き放たれていった。

1820年の示現

それから天よりの示現に包まれた彼は、姿形の実によく似た(1842)栄光に満ちたふたりの御方を見た。(1838, 1842)彼は自分の罪が赦されたことを知らされ(1832),さらに以前から彼の心を騒がせていた問題についても教えを受けた。すなわち、あらゆる教派は誤った教義を信じているため(1832, 1838, 1842),結果としてどの教派も神の教会あるいは神の王国として神から認められていないということである。(1832)そしてどの教派にも加わらないようにと命じられる(1838)とともに、真実の教義すなわち完全なる福音がいつの日か彼に示されるという約束を受けた。その後、彼の心に筆舌に尽くしがたい静寂と平安を残して示現は退いた。(1832)

その後オルソンは、最初の示現でジョ

セフに語りかけられたのは御父と御子であったと宣言しています。「ミレニアル・スター」の編集に携わっている間に、彼は『御父と御子はふたりの別個の御方か』という題の記事を書きました。プラット長老はその中で、神会の御二方が別の個性を持っておられるという自身の信仰を擁護するため、聖典からの証拠と教会歴史にある事実を載せています。プラット長老は教義を教えるために教会歴史を引用して、ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンが「神の右」におられるキリストを1832年の2月に見たこと(教義と聖約76章)、またジョセフ・スミスが最初の示現で「御父と御子のおふたり」を見たことを宣言しています。(注8)

ソルトレーク盆地へ移動した後の説教で、時折プラット長老は予言者から聞いた神聖な体験について伝えています。たとえば1859年の説教では、ジョセフ・スミスから聞いた話として、ジョセフの14,5歳のときの経験を次のように公表しています。「彼は示現を見た。そして栄光に満ちたふたりの御方を見た。ひとりの御方がもうひとりの御方を差して、『こはわが愛する子なり。彼に聞け』と仰せになった。それからジョセフは彼自身のことについて多くの指示を受け、いずれの教会にも加わってはならないと命じられた。さらに近い将来に完全なる福音が示され、彼がみ手なる器として神の王国の基を据えるであろうと知らされた。」(注9)

オルソン・ハイドの証

もうひとりジョセフ・スミスの親友で、予言者自身がその歴史記録を出版する以



●1839年、オルソン・プラットはペンシルベニアで予言者の同僚として伝道した。

前に、すでに最初の示現の記事を載せたパンフレットを出した人は、オルソン・ハイドでした。ハイド長老は1830年代の大半をカートランドの予言者の自宅近くで暮らし、1831年10月30日にバプテスマを受け、宣教師に召されました。彼の最初の同僚は、ジョセフの兄弟であるハイラムとサミュエルのふたりでした。

1833年には予言者の塾の教師として予言者から招かれています。またその信仰と力量を買われて、1835年に最初の十二使徒評議員会会員に召されました。1830年代を通じて予言者と幾度か旅をしたことで、ふたりの交際は深まっていきました。

さらにノーヴーの聖徒たちと共に集合を終えたハイド長老は、パレスチナへの

伝道に召され、ユダヤ人の集合に備えて聖地を奉獻しました。それから1842年8月に帰郷すると、ドイツのフランクフルトで「荒野からの叫び、地のちりからの声」という表題の伝道用パンフレット(注10)を出版しました。このパンフレットの原典はオルソン・プラットの「驚嘆すべき示現」ですが、ハイドの著作には原典には見られない序文が含まれていて、より詳細な説明が加わっています。

ハイド長老は「荒野からの叫び」の中で、ジョセフの真理への探求と、ヤコブの祈りの訓戒を受け入れて父の家の近くの森で捧げた祈り、そして敵の存在と暗黒に続く光の出現について述べています。ジョセフの示現に関してハイド長老は、ジョセフが互いに姿形がよく似ておられ

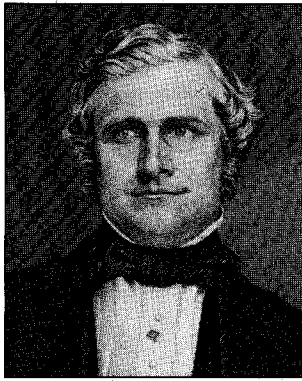
る栄光に満ちたふたりの御方を見た」と記しています。ふたりの御方はいずれの教派にも加わるべきではないと告げました。いずれの教派も誤っていて、神の教会、神の王国とは認められないからでした。そして真実のキリストの教義を完全なる福音が示される後の日まで待つように言われました。示現が閉じられるとジョセフの魂は平安と静寂に満たされたと、ハイド長老は結んでいます。

最初の示現に関するそのほかの記述

当時ジョセフ・スミスから最初の示現について聞いたと言っているのは、末日聖徒だけではなくありません。「ピッツバーグ・ガゼット」紙の編集者は非会員でしたが、ノーヴーで予言者にインタビ

ジョセフ・スミスは予言者の
塾で、回復された信仰の教義
を啓示により明らかにした。





ジョン・テイラー

ューして記事を發表しています。編集者は最初の示現に先立って心に生じた変化、また、少年ジョセフがどの教会に加わるべきかを知りたいと願ったこと、さらにヤコブの訓戒に従って祈ったことについて論じています。そして最初の示現については、予言者自身から聞いたと述べています。

彼はジョセフ・スミスの言葉を次のように引用しています。「私は光を見た。それから光の中に栄光に満ちた御方ともうひとりの御方が見え、最初の御方があとの御方に言われた。『こはわが愛する子なり。彼に聞け。』そこで私はあとの御方に、主よどの教会に加わるべきかと尋ねた。その御方はいずれの教会も誤っている故に加わらないようにと答えたもうた。」(注11)

改宗してノーヴーの聖徒と共に集合したアレキサンダー・ネイバーは、夕食のときにジョセフが語ったことを日記に記しています。ネイバーは、予言者が聖書の祈りの聖句に心ひかれて森へ入って祈ったと語ったことを書いています。彼はしばらくの間舌がしびれて物が言えず、それから彼のもとへゆっくりと降りてくる炎を見ました。彼には「その炎の中に光輝く顔と青い目をした御方が見え、もうひとりの御方が初めの御方のかたわらに来られた。そこでスミス氏がメソジスト派の教会に加わるべきかどうか尋ねた。否、彼らはわが民にあらず。彼らは道を誤り。善を行なえるはひとつだになからん。こはわが愛する子なり。彼に聞け。」(注12)

ジョン・テイラー大管長も当時ジョセ

フ・スミスと「ごく親しかった」人のひとり、予言者の口から最初の示現について聞かされました。「私は彼(ジョセフ・スミス)と旅をした。公私にわたって彼の傍らにあり、あらゆる評議会で彼と交わってきた。公式の説教に耳を傾け、友や気のおけない仲間への助言を耳にしたのも数えきれない。彼が家で家族に接する態度も目にしてきた。カーセージでの暗殺のときも彼と共にあった。私は神と天使のみ前と人々の前で証する。彼は善良で徳高い立派な人だった。公私ともに罪や汚れのない人で、まさしく神の人として生き、亡くなった。」(注13)

ジョセフが話してくれたことを思い起こして、テイラー長老は次のように語っている。「彼がそれについて話してくれたことをお伝えすることができる。彼の話によれば、神の方法や意図、目的についてよくわからない、というよりは何も知らなかったのである。彼は当時宗教界の事情や制度、理論などには無知な若者だった。彼はヤコブの言葉を読んで主のみもとへ行ったのだ。その言葉を信じて主のみもとへ行き、尋ね求めたのである。そして主は御子であられるイエスと共に彼にご自身を現わし、御子を指して言われた。『こはわが愛する子なり。彼に聞け。』そこで彼は自分を取り巻く様々な宗教について尋ねた。どの教派が正しいかを尋ねた。正しい道を知って、それに従って歩みたいと思っていたからである。彼の受けた答えは、いずれの教派も正しくない、いずれもみな正しい道からそれているというものであった。」(注14)

テイラー長老は、最初の示現で明らか

にされた基本的な真理をジョセフ・スミスから直接学んだと言っていますが、そればかりでなく、ジョセフ・スミスの1838年の歴史記録の中で論じている教会の組織に先立つ出来事が正確なものであるとも宣言しています。

1880年10月の第50回教会半期総大会において、教会員はテイラー長老を予言者、聖見者にして啓示を受ける者として支持しました。この支持に伴って、ジョージ・Q・キャンノン第一副管長はテイラー長老の指示により、ジョセフ・スミスの最初の示現にかかわる1838年の記述を含む教義と聖約と高価なる真珠の新版を、集会で提示しました。そして出席した人々に、それぞれの書とその内容を「神からのものとし、さらに民や教会の定めとして」受け入れるように求めたのです。それからジョセフ・F・スミス第二副管長は、会員はそれらの書を「神から教会への啓示」として受け入れるとの動議を提示しました。指導者と会員たちは満場一致で、教義と聖約と高価なる真珠にある最初の示現とほかの事柄が神の靈感によるものであると認めました。(注15)

この支持により、大管長会と十二使徒会(大半がジョセフ・スミスと個人的に面識があった)およびほかの教会員は、1820年の示現を内容とするジョセフ・スミスの1838年の歴史記録が、実際の歴史的な出来事を記した信頼に足るものであると証しています。

1830年から現在に至るまで、教会幹部および全世界の末日聖徒は、最初の示現に関してのジョセフ・スミスの教えや記述の真実性を証してきました。たとえば



●非教会員の編集者が予言者にインタビューをして、最初の示現についての記事を書いた

ン著「エドワード・ステューブンスンの生涯」(ブリガム・ヤング大学文学修士課程論文, pp. 19-20, 1955年) エドワード・ステューブンスン「予言者ジョセフの回想とモルモン経の出現」(ソルトレーク・シティー, 1893年, p. 4)

3. 『オルソン・プラットの経歴』「ミレニアル・スター」1865年2月11日付, p. 88

4. この「オルソン・プラットによる」伝道用パンフレットの出版に関しては、ジョセフ・スミスの1840年12月付の歴史記録に、「エジンバラにて9月」と記されている。「教会歴史」4: 254参照。

5. 『説教集』7: 220

6. ジョセフ・スミスの最初の示現に関する記事はミルトン・V・バックマン・ジュニアの「ジョセフ・スミスの最初の示現」の付録に発表されている。(ソルトレーク・シティー, ブッククラフト社, 1980年)

7. ジョセフ・スミスは1832年の歴史記録で、貧しさ故に家族を養うためにやむなくきつい労働につき、自分と兄弟や姉妹たちは教育の恩恵にあずかれなかったと書いている。さらに次のようにつけ加えている。「私は読み書きと計算の基礎的な法則のみを教えられたが、これが文字通り私の受けた教育のすべてであると言えよう。」(「ジョセフ・スミスの私的書簡」ディーン・C・ジェシー, ソルトレーク・シティー, デゼレトブック社, 1984年, p. 4)

8. 『ミレニアル・スター』1849年9月15日付, pp. 281-84; 1849年10月15日付, pp. 309-12

9. 『説教集』7: 220-21

10. ハイドのパンフレットには、ほかに翻訳と内容の違うものがある。この版の写しは教会歴史部にある。

11. 「ニューヨーク・スペクテーター」1843年9月23日付

12. アレキサンダー・ネイバーの日記, 1844年5月24日, 末日聖徒教会歴史部

13. 「3晩の公開討論」(リバプール, ジョン・テイラー, 1850年) pp. 23-24

14. 『説教集』21: 161

15. 『ミレニアル・スター』1880年11月15日付, pp. 723-24

16. スペンサー・W・キンボール「スペンサー・W・キンボールの教え」エドワード・L・キンボール編(ソルトレーク・シティー, ブッククラフト社, 1982年) pp. 428-30

スペンサー・W・キンボール大管長は次のように宣言しています。「このジョセフへの完全なる示現を除いては、いかなるものも幾世紀にもわたる霧を取り払うことはできなかった。感性と隠れた声と示現のみが古い幻想と誤解を追い払うことができたのである。

これらすべての世界の神と、贖い主、救い主なる神の御子は人の形にてこの少年を訪れたもうた。その少年は生ける神を、生けるキリストを見た。」(注16)

*ミルトン・V・バックマン・ジュニア: 3児の父, ブリガム・ヤング大学教会歴史学教授

注解

1. 記事は1832年, 1835年, 1838年および1842年に書かれた。予言者は1832年の経験に関する記事は出版せずに、草案だけを残している。1835年の記事はカートランドでの日記に記録されているが、予言者はこれを既刊の「教会歴史」には入れなかった。1838年の記事は、ジョセフ・スミスが1838年の春に着手してから1839年11月以前に完成したものである。この歴史は当初1842年の「タイムズ・アンド・シーズンズ」誌に発表され、1880年に教会から聖典として認められた高価なる真珠の1878年度版に収められている。ウエントワースの書簡として知られている1842年の記事は、予言者が準備した最後のものである。それは1838年の歴史記録の連載が始まる少し前の1842年3月に発表された。

2. ジョセフ・グラント・ステューブンスン

手をしっかりと握り締める前に

つがまじりな手に

まっすぐで細い道に
人を連れ戻したいなら、
まず自分が鉄の棒を
しっかり握り締めることです。



